

## 6.1.4. 生物環境

### (1) 植物

#### ア 植物相の状況

概況調査地域については、「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書(平成 16 年 2 月、仙台市)」、「仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書(昭和 57 年、宮城県)」により、植物相の状況を把握した。

概況調査地域の北側及び西側一帯は、市街地となっているため、飛行場、運動公園などの芝地(人工草地)、広瀬川や名取川の河川植生がみられる程度で、その他の公園等を除いてはまとまった植物がほとんどみられない。それに対し、事業予定地南側及び仙台東部道路から東側一帯には、水田が広く分布している。水田地帯ではケイヌビエ、タマガヤツリなど、イネ科及びカヤツリグサ科の草本が確認され、タネツケバナ、キカシグサ、アゼトウガラシ、ウリカワ、オモダカ、コナギ、セリなどの湿地性植物や抽水植物が生育しているものと考えられる。

概況調査地域の海岸線には、クロマツ植林の中に小規模のアカマツ群落が点在している樹林がある。また、海岸線の南端は井土浦の干潟及び湿地が確認され、ヨシ、アイアシ、オカヒジキ、ハマゼリ、ハマニンニク、ハマヒルガオ、コウボウシバなど特有の植物が生育していると考えられる。概況調査地域南西側には、名取川及び広瀬川が位置し、河川植生として、ヤナギ高木・低木群落を確認することができ、ヨシなどイネ科植物が生育していると考えられる。

事業予定地は、ほとんどが水田で、コナギ、セリ、ケイヌビエなど水田雑草が生育していると考えられる。事業予定地内の農業用水路は、コンクリート側溝が設置されており、植物がほとんどみられない状況である。

また、事業予定地に一部含まれる霞目雨水幹線も、コンクリート水路で植物はほとんどみられない。

#### イ 注目すべき植物の状況

注目すべき植物については、宮城県植物目録(平成 13 年 3 月、宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会)を基に、次頁に示す「注目すべき植物種の選定基準」に該当する植物を注目すべき植物として選定した。

また、仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(平成 21 年 8 月)の調査結果も参照した。

概況調査地域には、表 6.1.4-1(1)~(3)に示すとおり、58 科 127 種の注目すべき植物種が生育しているものと考えられる。また、「平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成 22 年 仙台市)における保全上重要な植物分布は、図 6.1.4-1 に示すとおりである。

「平成 6 年度自然環境基礎調査報告書(平成 7 年 3 月 仙台市)」では、保全上重要な種の分布地について、事業予定地の東側に位置する大沼に生育するスジヌマハリイ(環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、宮城県レッドデータブック準絶滅危惧)、ヒメシロアサザ(環境省準絶滅危惧、宮城県レッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類)を挙げている。また、広瀬川・名取川合流地点においては、タコノアシ(環境省レッドリスト準絶滅危惧、宮城県レッドデータブック要注目種)が確認されている。

巨木等については、「第 4 回自然環境保全基礎調査、巨樹・巨木林、北海道・東北

版（平成 3 年、環境庁）」及び「第 6 回自然環境保全基礎調査、巨樹・巨木林（平成 13 年、環境庁）」、「杜の都の名木・古木（平成 21 年 3 月、仙台市）」の資料を基に確認をした。

概況調査地域では、表 6.1.4-2（p.6-78 参照）に示すとおり、「七郷の大桑」や「照徳寺のいちょう」等 36 箇所の巨樹・巨木等が生育しているものと考えられる。また、「文化財保護法」における天然記念物については、銀杏町のいちょう、古城の臥竜梅（朝鮮ウメ）がある。事業予定地には、巨樹・巨木はみられない。

【 注目すべき植物種の選定基準 】

- ①「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）に基づく天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物
- ③「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト -レッドリスト」（平成 19 年 環境省）の掲載種
- ④「宮城県の希少な野生動植物 -宮城県レッドデータブック-」（平成 13 年 宮城県）の掲載種
- ⑤「平成 6 年度自然環境基礎調査報告書」（平成 7 年 仙台市）の保全上重要な植物種
- ⑥「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 16 年 仙台市）における学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい種（概況調査地域には、山地、丘陵地が含まれないことから、減少種については、区分の市街地、田園、海浜に該当する種とした）
- ⑦「平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 22 年 仙台市）における学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい種（概況調査地域には、山地、西部丘陵地・田園が含まれないことから、減少種については、区分の市街地、東部田園、海浜に該当する種とした）

表 6.1.4-1(1) 注目すべき植物種

科 名	種 名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ミズニラ科	ミズニラ			NT	NT		○	○
トクサ科	イヌスギナ（*）						○	○
イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ						○	○
ヒメシダ科	ヒメワラビ						○	○
メンダ科	クサソテツ（*）						○	○
デンジソウ科	デンジソウ			VU	CR+EN		○	○
サンショウモ科	サンショウモ			NT	NT		○	○
クルミ科	オニグルミ（*）						○	○
ヤナギ科	ネコヤナギ						○	○
カバノキ科	ハンノキ（*）						○	○
	アカシデ						○	○
	イヌシデ						○	○
ブナ科	アカガシ						○	○
	シラカシ						○	○
	ウラジログシ				YO		○	○
ニレ科	エノキ（*）						○	○
	ケヤキ（*）						○	○
タデ科	ヤナギヌカボ			VU	YO		○	○
	ミヅソバ（*）						○	○
	ノダイオウ			NT	YO		○	○
ザクロソウ科	ザクロソウ（*）					○	○	
ナデシコ科	カワラナデシコ						○	○
アカザ科	ハママツナ				NT		○	○

表 6.1.4-1(2) 注目すべき植物種

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
クスノキ科	シロダモ (*)						○	○
キンボウゲ科	ニリンソウ						○	○
	キクザキイチゲ						○	○
	アズマイチゲ						○	
スイレン科	ハス					○		
マツモ科	マツモ						○	○
	ヨツバリマツモ				YO		○	○
ツバキ科	ヤブツバキ (*)						○	○
モウセンゴケ科	モウセンゴケ						○	○
	コモウセンゴケ				CR+EN		○	
ケシ科	キケマン				VU		○	
アブラナ科	ナズナ (*)						○	○
ユキノシタ科	トリアシショウマ						○	○
	ユキノシタ						○	○
バラ科	シャリンバイ					○	○	
	ハマナス				NT		○	○
	テリハノイバラ				YO		○	
	カジイチゴ				YO	○	○	○
マメ科	イヌハギ			NT	NT	○	○	○
	センダイハギ				CR+EN		○	○
	ヤハズエンドウ (*)				YO			
トウダイグサ科	ノウルシ (*)			NT	YO			
ミカン科	ミヤマシキミ					○	○	○
モチノキ科	モチノキ				YO	○	○	
ヒシ科	ヒシ						○	○
アリノトウグサ科	タチモ			NT	VU		○	○
ミズキ科	アオキ (*)						○	○
セリ科	ハマボウフウ				VU		○	○
ツツジ科	ヤマツツジ						○	○
ミツガシワ科	ヒメシロアサザ			VU	CR+EN	○	○	○
	ガガブタ			NT	CR+EN		○	
	アサザ			NT	CR+EN		○	
ヒルガオ科	ハマヒルガオ						○	○
シソ科	エゾニガクサ			CR	CR+EN		○	○
ゴマノハグサ科	オオアブノメ			VU	YO	○	○	○
	ウンラン						○	○
タヌキモ科	タヌキモ			NT	CR+EN		○	○
	フサタヌキモ			EN	EX		○	○
	ムラサキミミカキグサ			NT	CR+EN		○	○
オミナエシ科	オミナエシ				NT		○	○
キキョウ科	ツリガネニンジン						○	
キク科	カワラヨモギ (*)				NT			
	エゾタンポポ (*)						○	○
	ウスギタンポポ						○	
オモダカ科	ヘラオモダカ						○	○
	サジオモダカ						○	○
	アギナシ			NT	VU		○	○
	ウリカワ (*)				YO			○
	オモダカ (*)						○	○
トチカガミ科	クロモ						○	○
ホロムイソウ科	シバナ			NT	CR+EN		○	
ヒルムシロ科	エビモ (*)						○	○
	コバノヒルムシロ			VU	VU		○	○
	ヒルムシロ (*)						○	○
	ホソバミズヒキモ				VU		○	○
	イトモ			NT	YO		○	○
イバラモ科	イトトリゲモ			NT	NT		○	○
	トリゲモ			VU	CR+EN		○	○
	オオトリゲモ				CR+EN		○	○

表 6.1.4-1(3) 注目すべき植物種

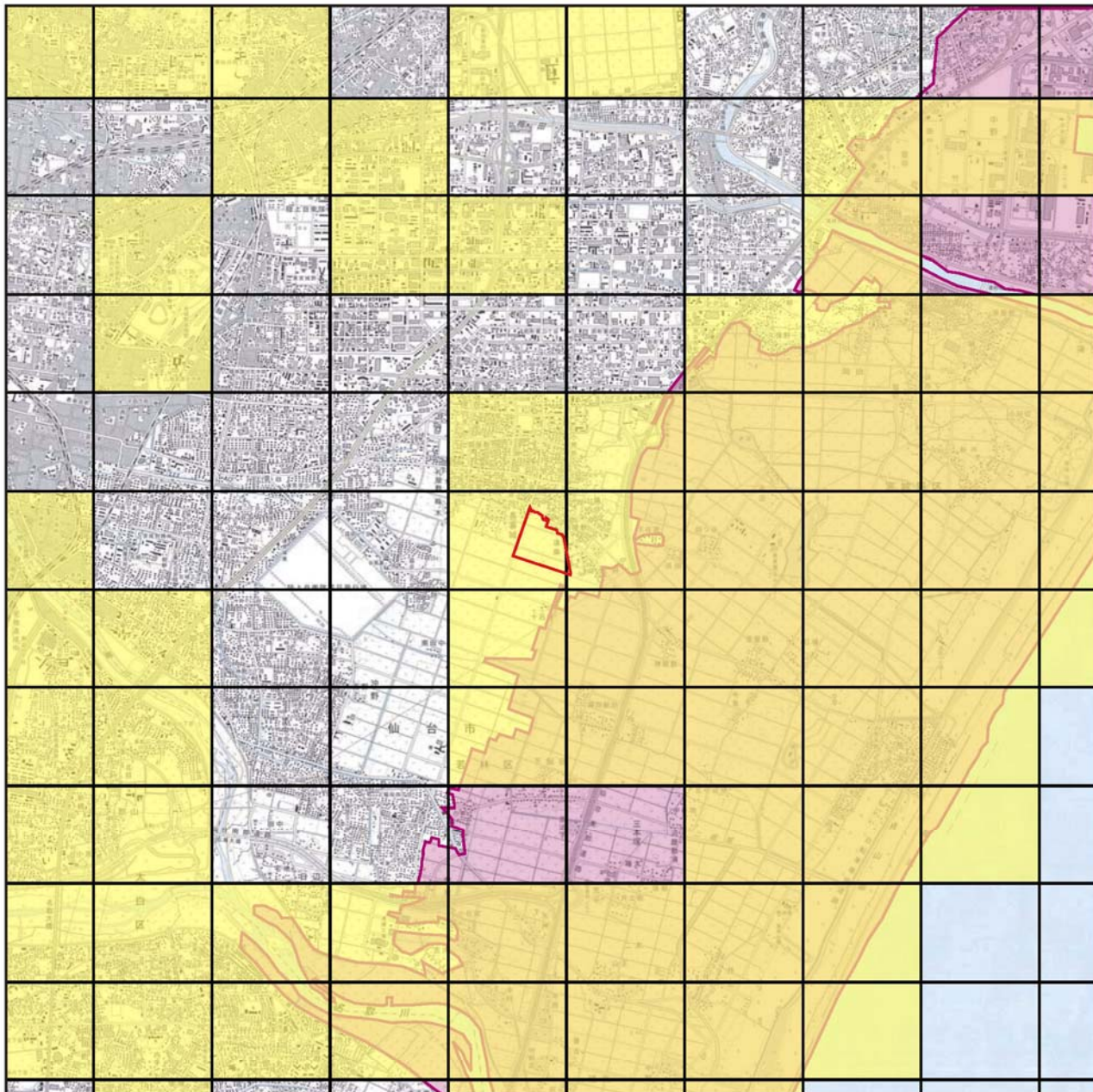
科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ユリ科	カタクリ						○	○
	ニッコウキスゲ						○	○
	コオニユリ				VU		○	○
キンバイザサ科	コキンバイザサ				EX		○	
ミズアオイ科	ミズアオイ(*)			NT	VU	○	○	○
	コナギ(*)						○	○
アヤメ科	ヒオウギ				VU		○	○
	ノハナショウブ						○	○
	ヒメシャガ			NT	NT		○	○
	カキツバタ			NT	CR+EN		○	○
イネ科	ヤマアワ(*)						○	○
	カゼクサ(*)						○	○
	オオウシノケグサ(*)						○	○
	ケカモノハシ						○	○
	カモノハシ						○	○
	エゾノサヤヌカグサ(*)						○	○
	オギ(*)						○	○
	アイアシ				NT		○	○
	クサヨシ(*)						○	
	ヨシ(*)						○	○
	アズマネザサ(*)						○	
	マコモ(*)						○	○
	シバ(*)						○	○
オニシバ						○		
サトイモ科	ヒメザゼンソウ						○	○
ミクリ科	ミクリ(*)			NT	YO		○	○
	ヤマトミクリ			NT	CR+EN		○	○
	ナガエミクリ			NT	YO		○	○
ガマ科	ヒメガマ(*)						○	○
	ガマ						○	○
カヤツリグサ科	ナルコスゲ						○	
	コウボウムギ						○	○
	コウボウシバ						○	
	オオカサスゲ						○	○
	オオクグ			NT	NT	○		○
	スジヌマハリイ			NT	VU	○	○	○
	ナガボテンツキ				VU	○	○	○
	フトイ(*)						○	○
	カンガレイ(*)						○	○
サンカクイ(*)						○	○	
ラン科	エゾスズラン				VU		○	○
	ミズトンボ			VU	CR+EN		○	○
	マツラン			VU	CR+EN		○	○
	カヤラン				CR+EN		○	○
	ネジバナ(*)						○	○
58科	127種	0種	0種	32種	56種	12種	122種	107種

○：確認種

①～⑦：注目すべき植物の選定基準

③レッドリスト及び④レッドデータブック掲載種の区分




EX(絶滅)	既に絶滅したと考えられる種
CR+EN(絶滅危惧 I 類)	絶滅の危機に瀕している種
CR(絶滅危惧 I A 類)	ごく近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの
EN(絶滅危惧 I B 類)	IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの
VU(絶滅危惧 II 類)	絶滅の危険が増大している種
NT(準絶滅危惧)	存在基盤が脆弱な種
DD(情報不足)	評価するだけの情報が不足している種
YO(要注目種)	現時点で普通にみられるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種



出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011. 4. 9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  保全上重要な植物分布区域
-  浸水区域



縮尺 1/60,000



図 6.1.4-1 保全上重要な植物分布図

表 6.1.4-2 調査地域の保存樹木及び巨木、天然記念物

## 【仙台市宮城野区】

番号	名称	樹種	推定樹齢	所在地	所有者
1	千手観音堂のいちょう	イチヨウ	200	原町一丁目	千手観音堂
2	稲舟神社のもみじ	イロハカエデ	200	五輪一丁目	稲舟神社
3(*)	銀杏町のいちょう	イチヨウ	1200	銀杏町 7-36	長野チトセ他
4	宮城野中学校の朝鮮松	チョウセンゴヨウマツ	67	五輪一丁目 4-25	宮城野中学校
5	榴岡公園のしだれざくら	シダレザクラ	280	榴岡 10	仙台市
6	榴岡公園のさいかち	サイカチ	200	榴岡 7	仙台市
7	孝勝寺の黒松	クロマツ	310	榴岡四丁目 11-11	孝勝寺
8	榴岡天満宮のしらかし	シラカシ	300	榴岡 23	榴岡天満宮
9	宮城野八幡神社のけやき	ケヤキ	200	銀杏町 7-37	宮城野八幡神社
10	大山祇神社のいちょう	イチヨウ	200	新田四丁目 3-19	大山祇神社
11	福田町の黒松	クロマツ	350	福田町二丁目 1-10	田中健治
12	照徳寺のいちょう	イチヨウ	350	岡田字浜通 36	照徳寺
13	栄のぎよりゅう	ギョリュウ	130	栄一丁目 8-15	郷家次郎

## 【仙台市若林区】

番号	名称	樹種	推定樹齢	所在地	所有者
1	正楽寺のいちょう	イチヨウ	300	新寺二丁目 6-35	正楽寺
2	正楽寺のくすのき	クスノキ	200	新寺二丁目 6-35	正楽寺
3	愚鈍院のこつぶがや	カヤ	250	新寺三丁目 12-7	愚鈍院
4	大林寺のかや	カヤ	250	新寺四丁目 7-6	大林寺
5	道仁寺のたぶのき	タブノキ	200	新寺五丁目 9-40	道仁寺
6	道仁寺のさくら(1)	サクラ	200	新寺五丁目 9	道仁寺
7	道仁寺のしだれざくら	シダレザクラ	200	新寺五丁目 9	道仁寺
8	道仁寺のさくら(2)	サクラ	200	新寺五丁目 9	道仁寺
9	栽松院のしらかし	シラカシ	1000	連坊一丁目 3-18	栽松院
10	信夫神社のいちょう	イチヨウ	350	三百人町 142-2	信夫神社
11	大荒神社のいちょう	イチヨウ	320	南鍛冶町 41-4	大荒神社
12	満福寺の黒松	クロマツ	300	荒町 206	満福寺
13	薬師堂のひいらぎ	ヒイラギ	200	木ノ下三丁目 8-1	薬師堂
14	薬師堂のあらかし	アラカシ	200	木ノ下三丁目 8-1	仙台市
15	薬師堂のいちょう	イチヨウ	350	木ノ下三丁目 8-1	仙台市
16	聖ウルスラ学院のけやき	ケヤキ	250	一本杉町 1-2	聖ウルスラ学院
17	若林区役所のしだれざくら	シダレザクラ	390	保春院前丁 3-1	仙台市
18	古城の黒松	クロマツ	330	古城二丁目 3-1	宮城刑務所
19(*)	古城の臥竜梅（朝鮮ウメ）	ウメ	360	古城二丁目 3-1	宮城刑務所
20	旅立稲荷神社のけやき	ケヤキ	200	若林二丁目 1-3	旅立稲荷神社
21	六郷のかや	カヤ	300	二木字北中谷地 184	菅野ハル江
22	井土浜の黒松	クロマツ	200	井土字宅地 14	丹野幸志
23	七郷の大桑	クワ	300	荒井字畑中 58	萱場庄一

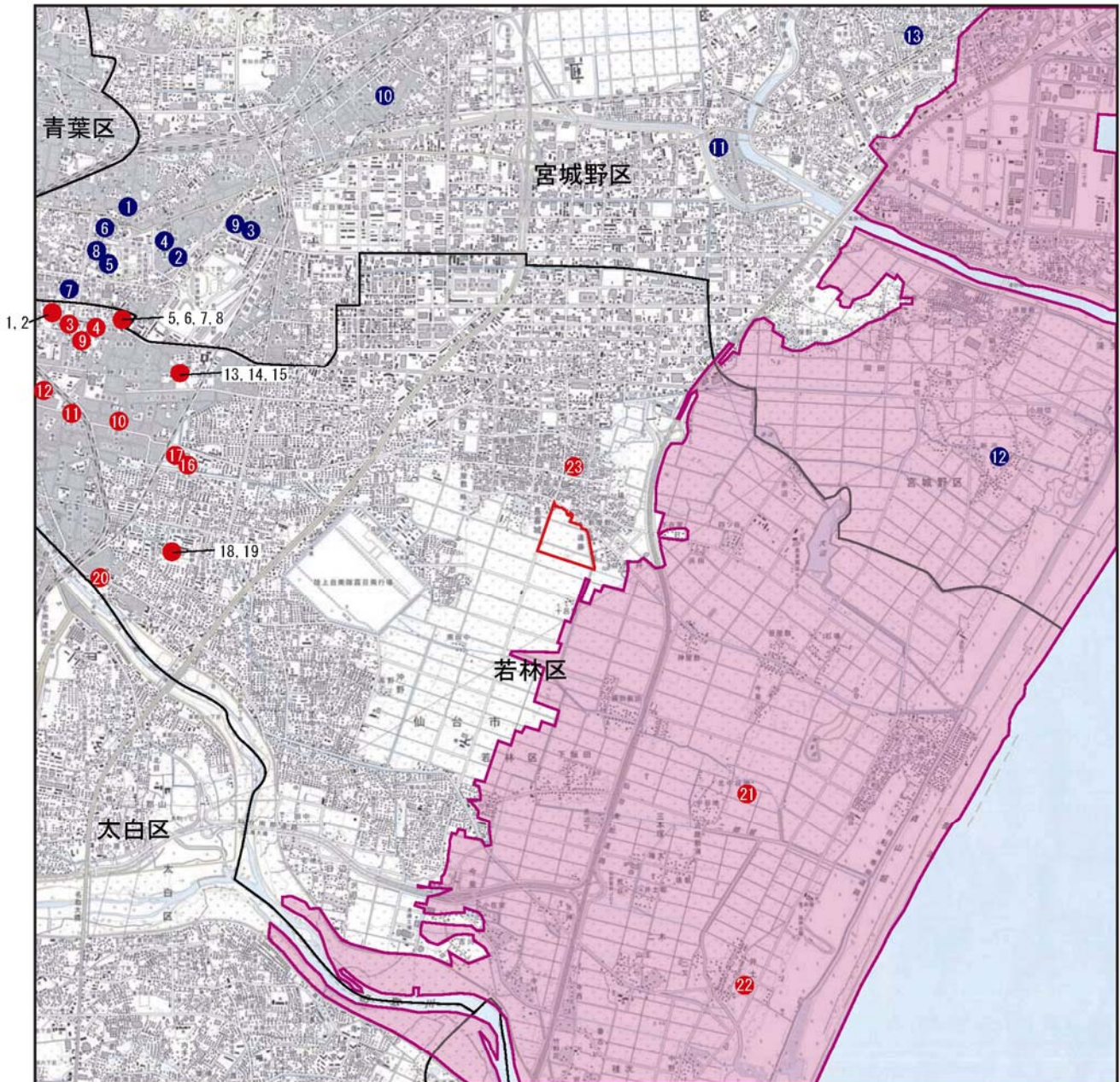
※東北地方太平洋沖地震による浸水により、上表仙台市宮城野区 12 照徳寺のいちょう、仙台市若林区 21 六郷のかや、22 井土浜の黒松に影響があった巨木がみられる

出典：杜の都の名木・古木、平成 21 年、仙台市

(\*)：天然記念物

※仙台市宮城野区、若林区の番号は、図 6.1.4-2 の番号を示す。

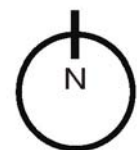




出典：杜の都の名木・古木 平成 21 年 仙台市  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成  
 ※東北地方太平洋沖地震による浸水の影響があった巨木がみられる

凡 例

- 事業予定地
- 1 宮城野区の保存樹木及び巨木、天然記念物
- 1 若林区の保存樹木及び巨木、天然記念物
- 区界
- 浸水区域



縮尺 1/60,000



図 6.1.4-2 保存樹木及び巨木、天然記念物位置図

## ウ 植生及び注目すべき植物群落・重要な地域の状況等

概況調査地域の現存植生図は、図 6.1.4-3 に示すとおりである。

概況調査地域の北東側には梅田川、南西側には名取川及びその支流の広瀬川が位置し、植生自然度の高いヨシクラス群落、ヤナギ高木林、ヤナギ低木林がみられる。

また、概況調査地域の海岸線南側には、井土浦の湿地帯の一部がみられる。井土浦は、海水が流入する塩生潟で、海浜地帯に特有の塩沼地植生が分布しているものと考えられる。

概況調査地域における注目すべき植物群落・重要な地域は、下記の選定基準に該当する植物群落・重要な地域とした。調査の結果は、表 6.1.4-3 及び図 6.1.4-4 に示すとおりである。

事業予定地は、ほとんどが水田で、水田雑草群落が分布するものと考えられるが、水路にはコンクリート側溝が設置されており、植物がほとんどみられない状況である。事業予定地及び周辺地域の植生は、図 6.1.4-5 (p.6-84 参照) に示すとおりである。

### 【 注目すべき植物群落・重要な地域の選定基準 】

- ①「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号) に基づく天然記念物
- ②「第 2、3 回自然環境保全基礎調査」(昭和 56 年、平成元年 環境庁) の特定植物群落
- ③「植物群落レッドデータブック」(平成 8 年 (財)日本自然保護協会)の指定群落
- ④「宮城県の希少な野生動植物 ―宮城県レッドデータブック―」(平成 13 年 宮城県) の調査群落
- ⑤「平成 6 年度自然環境基礎調査報告書」(平成 7 年 仙台市)の保全上重要な植物群落
- ⑥「平成 6 年度自然環境基礎調査報告書」(平成 7 年 仙台市)の保全上重要な種の分布地
- ⑦「平成 14 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成 15 年 仙台市)の植物生育地として重要な地域
- ⑧「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 仙台市)の植物生育地として重要な地域



表 6.1.4-3 注目すべき植物群落・重要な地域

名 称	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	概 要
ア.仙台湾沿岸の海岸林 (仙台湾海浜県自然環境保全地域、飛砂・潮害防備保安林)		F	F	ランク 3	F	○	○	7,9	仙台湾海浜県自然環境保全地域。飛砂、潮害防備保安林。仙台港より福島県境に至る約 40km の沿岸部。藩政時代からのクロマツ林で飛砂、潮風の防備の役割も大きい。
イ.仙台湾沿岸の砂浜植物群落 (仙台湾海浜県自然環境保全地域)		D	D	ランク 3	D	○	○	1,3,4,5,6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。同上の範囲の砂浜で、もともと海側にはハマニンニク、内側ではコウボウムギ、さらに内側ではケカモノハシを主体とする群落が形成されている。
ウ.井土浦の塩生植物群落 (仙台湾海浜県自然環境保全地域)		D	D	ランク 3	D		○	1,3,4,5,6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟で、水は塩分を含む。ヨシ群落等が発達し、ハママツナ、ハマゼリ等塩性植物を産する。
エ.南長沼の池沼植物群落				ランク 3			○	1,4	仙台平野唯一の沼。近年浚渫され水生植物は見られない。現在は池沼植物の生育地としての価値が著しく減少した。
オ.名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生						○	○	8,9	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。河畔植生として保護が必要。
カ.七北田川下流域の河畔植生						○	○	8,9	河畔植生として保護が必要。
キ.与兵衛沼周辺の里地・里山植生							○	7,8	市街地に残された、まとまりのある里地・里山植生として重要。
ク.榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地							○	7,8	段丘に沿った緑地と社寺林景観。

※上表の注目すべき植物群落・重要な地域のうちア～エ及びオ、カの下流側は、東北地方太平洋沖地震による浸水の影響がみられる

上記選定基準資料②③⑤の選定基準区分

- A：原生林もしくはそれに近い自然林
- B：国内又は県内若干地域に分布する極めて希な植物群落
- C：南限、北限、隔離分布など分布限界にあたる植物群落
- D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地など特殊な立地に特有な植物群落
- E：郷土景観を代表する植物群落で特にその群落の特徴が典型的なもの
- F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採の手が入っていないもの

上記選定基準資料④の選定基準区分

- D（壊滅）
- ランク 4（壊滅状態）：群落は全体的の壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する
- ランク 3（壊滅危惧）：群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する
- ランク 2（破壊危惧）：群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある
- ランク 1（要注意）：群落は、現在保護・管理状態が良く、当面破壊されるおそれが少ない。しかし、監視は必要である

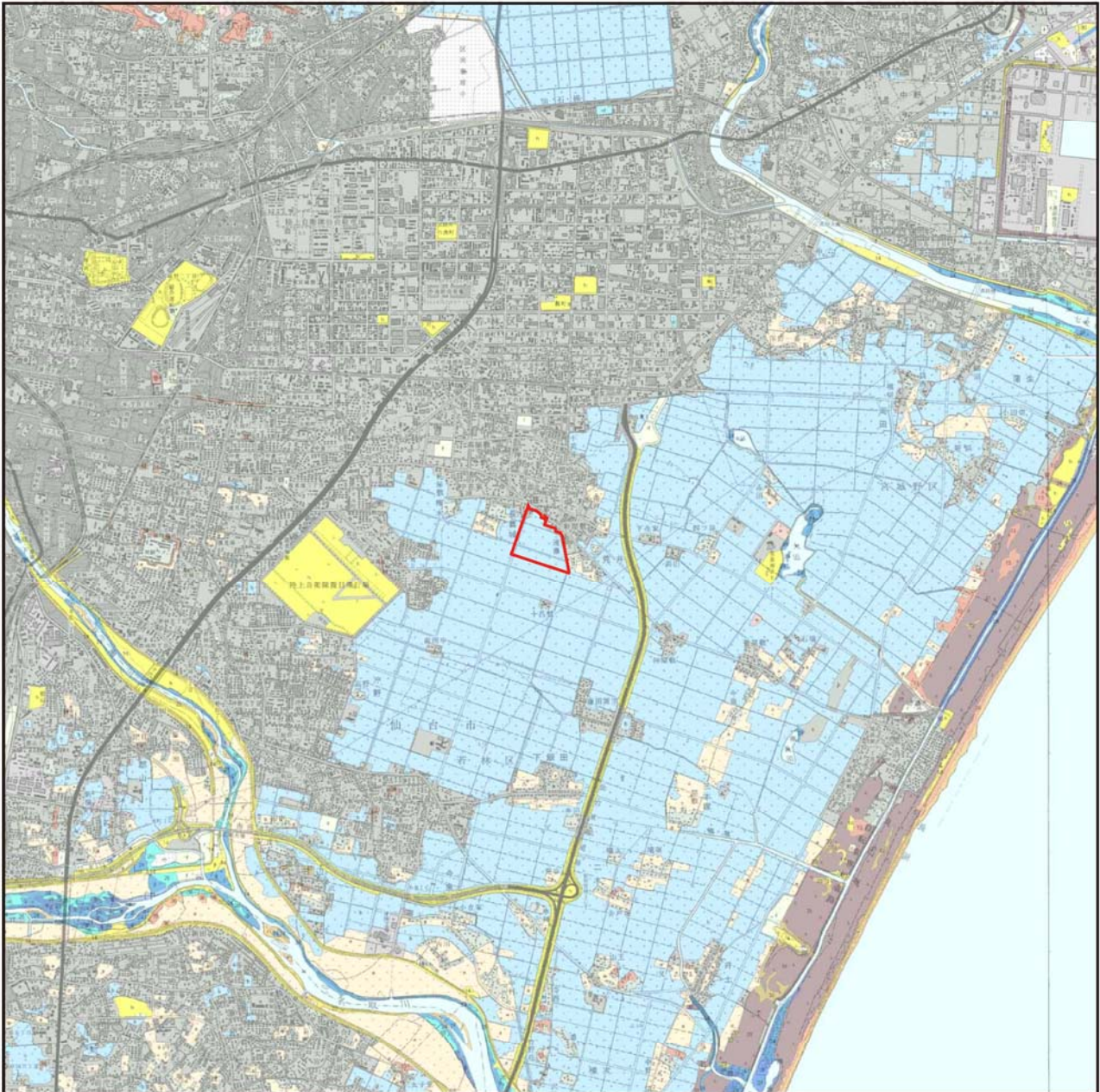
上記選定基準資料⑧の判断理由

- 1：保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域
- 2：多様な生物相が保存されている地域
- 3：自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
- 4：湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として奇異な環境を有する地域
- 5：自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
- 6：環境教育の場としてふさわしい地域
- 7：郷土の特色が保存されている地域（里地・里山・居久根等）
- 8：緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
- 9：海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

## エ 植物についての保全上の留意点

概況調査地域には多数の注目すべき植物及び植物群落が分布しているものと考えられる。事業予定地の北側に位置する七郷の大桑（保存樹木）については、工事中の資材等の運搬に用いる車両の走行による影響等を生じさせないように配慮する。

また、文献調査において、事業予定地に注目すべき植物群落はみられない。今後、水生植物、湿地性の植物の注目すべき種及び注目すべき植物群落が確認された場合は、保全対策を検討するものとする。



出典：自然環境保全基礎調査 平成14年 環境省

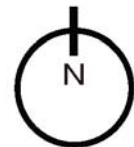
凡例



事業予定地

凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名

■	8. 180100. ヤナギ高木群落 (IV)	■	36. 550000. 竹林
■	9. 180200. ヤナギ低木群落 (IV)	■	h. 560100. ゴルフ場・芝地
■	11. 221200. オニグルミ群落 (V)	■	f. 570100. 路傍・空地雑草群落
■	12. 221300. ケヤキ二次林	■	e. 570200. 果樹園
■	13. 230100. アカマツ群落 (V)	■	a. 570300. 畑雑草群落
■	14. 250200. ススキ群団 (V)	■	b. 570400. 水田雑草群落
■	15. 260000. 伐採跡地群落 (V)	■	d. 570500. 放棄水田雑草群落
■	21. 410101. クリーコナラ群集	■	k. 580100. 市街地
■	23. 440200. クズ群落	■	i. 580101. 緑の多い住宅地
■	24. 470400. ヨシクラス	■	l. 580300. 工場地帯
■	26. 470502. オギ群集	■	m. 580400. 造成地
■	27. 470600. ヒルムシロクラス	■	w. 580600. 開放水域
■	30. 540100. スギ・ヒノキ・サワラ植林	■	r. 580700. 自然裸地
■	31. 540300. クロマツ植林		

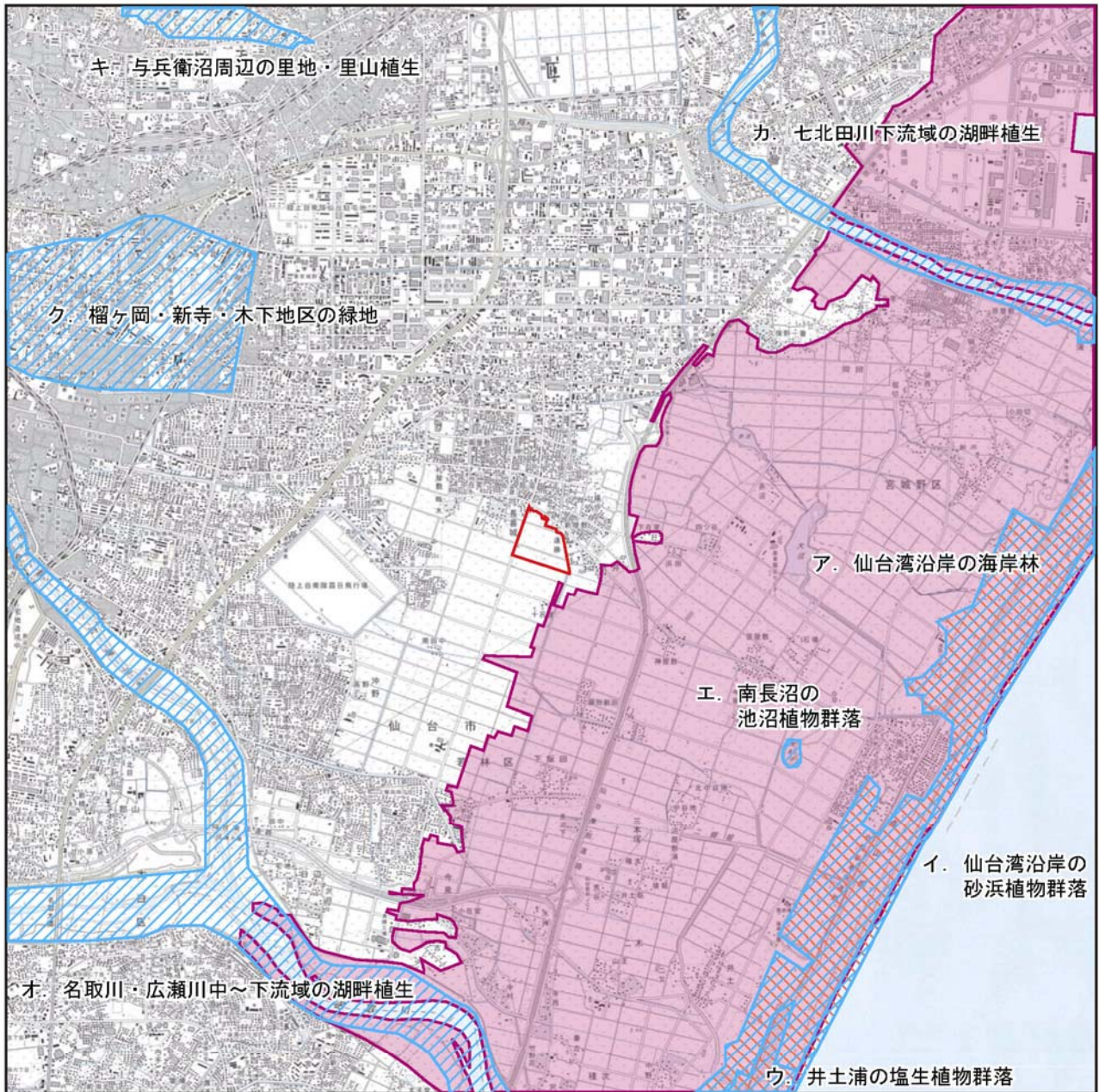


縮尺 1/60,000



図 6.1.4-3 既存植生図





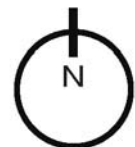
出典：第3回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図 1989 環境庁  
 平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成23年 仙台市

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

※東北地方太平洋沖地震による浸水の影響があった注目すべき植物群落・重要な地域が見られる

凡例

-  事業予定地
-  特定植物群落
-  重要な地域
-  浸水区域

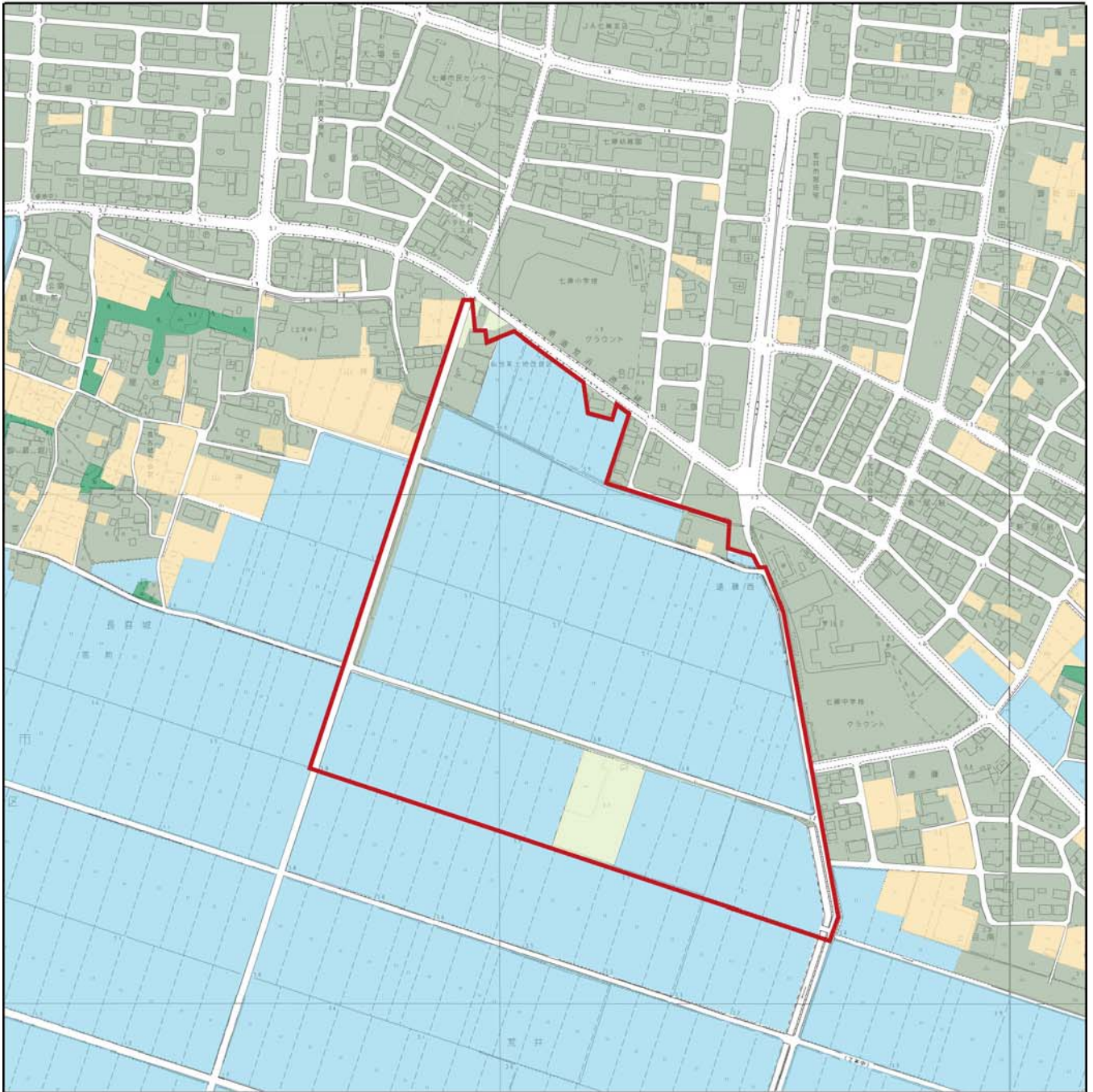


縮尺 1/60,000



図 6.1.4-4 注目すべき植物群落・重要な地域位置図

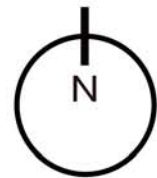




凡 例

事業予定地

水田雑草群落	
畑雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
市街地	
樹林・屋敷林	



縮尺 1/6,000



図 6.1.4-5 植生状況図



## (2) 動物

### ア 動物相の状況

概況調査地域については、「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年 2 月、仙台市）」、「仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（昭和 57 年、宮城県）」により、動物相の状況を把握した。

概況調査地域は、北側及び西側が市街地を形成し、南側及び東側は河川と海岸部を除く区域が水田となっていることから、水生昆虫、カエル類、ヘビ類、これらを捕食するサギ類や猛禽類が生息しているものと考えられる。海岸部は、約 500m の幅でクロマツ植林があり、仙台湾海浜県自然環境保全地域の一部に指定され、鳥類の生息環境となっていると考えられる。

また、概況調査地域の南東側には、井土浦の干潟の一部があり、鳥獣保護区特別保護地区に指定され、平地・農耕地に確認されるカエル類やヘビ類、オオヨシキリ、バン、コサギ、カルガモ、ムクドリなどの鳥類、アズマモグラ、ハタネズミなどが生息しているものと考えられる。また、井土浦は、シギ類の渡来地となっており、アオアシシギ、アカアシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギなどが生息しているものと考えられる。

概況調査地域の東側には大沼があり、マガンの渡来地となっていることから、カモ類、シギ類の鳥類が生息していると考えられる。

事業予定地は、ほとんどが水田であるため、水田環境の動物種が生息しているものと考えられる。水田内の水路はコンクリート側溝が設置されており、動物の生息環境としては、良好とはいえない状況で泥溜りもほとんどみられず、底生動物も少ないものと考えられる。

また、事業予定地内の霞目雨水幹線の開渠部分はコンクリート水路で、仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書によれば、ウナギやキンブナといった注目すべき魚類が確認されている。

### イ 注目すべき動物の状況

注目すべき動物については、下記に示した資料からリストを作成し、「注目すべき動物種の選定基準」に該当する動物を注目すべき動物として選定した。概況調査地域には、表 6.1.4-5～10（p.6-86～91 参照）に示すとおり、99 科 231 種の注目すべき動物が生息しているものと考えられる。

- a. 平成 6 年度自然環境基礎調査報告書 平成 7 年 3 月 仙台市
- b. 平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書 平成 16 年 2 月 仙台市
- c. 第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 平成 14 年 環境庁
- d. 第 4 回自然環境保全基礎調査 平成 5 年 環境庁
- e. 宮城県の鳥類分布 2002 (財)日本野鳥の会宮城県支部 2002
- f. 宮城県の両生類・は虫類 宮城野野生動物研究会 平成 12 年 10 月
- g. 宮城県の甲虫 日本鞘翅学会 1989
- h. 宮城県の鱗翅類 日本蛾類学会 1973
- i. 仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書 仙台市荒井東土地区画整理組合 設立準備委員会 平成 21 年 8 月

表 6.1.4-4 資料の記載内容

	a	b	c	d	e	f	g	h	i
哺乳類	○	○	○	○					○
鳥類	○	○		○	○				○
爬虫類	○	○	○			○			○
両生類	○	○	○	○		○			○
魚類	○	○	○	○					○
昆虫類	○	○	○	○			○	○	○

【 注目すべき動物種の選定基準 】

- ①：「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）に基づく天然記念物
- ②：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物
- ③：「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト - レッドリスト」（平成 19 年 環境庁）の掲載種
- ④：「宮城県の希少な野生動植物 - 宮城県レッドデータブック」（平成 13 年 宮城県）の掲載種
- ⑤：「平成 6 年度自然環境基礎調査報告書」（平成 7 年 仙台市）の保全上重要な動物種
- ⑥：「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 16 年 仙台市）における学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい種（概況調査地域には、山地、丘陵地が含まれないことから、減少種については、区分の市街地、田園、海浜に該当する種とした）
- ⑦：「平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 22 年 仙台市）における学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい種（概況調査地域には、山地、西部丘陵地・田園が含まれないことから、減少種については、区分の市街地、東部田園、海浜に該当する種とした）

表 6.1.4-5 注目すべき動物種（哺乳類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
トガリネズミ	ジネズミ					○	○	○
	カワネズミ					○	○	○
モグラ	アズマモグラ（*）						○	○
ヒナコウモリ	モモジロコウモリ						○	○
	ヤマコウモリ			NT	VU	○	○	○
	ヒナコウモリ				VU		○	○
ウサギ	ノウサギ						○	○
リス	ニホンリス						○	○
	ムササビ					○	○	○
ネズミ	ハタネズミ（*）						○	○
	ヒメネズミ（*）						○	○
イタチ	イタチ						○	○
7科	12種	0種	0種	1種	2種	4種	12種	12種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成22年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2010年)に準拠。  
 (\*): 仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(平成21年8月)における確認種。

○：確認種

①～⑦： 注目すべき動物種の選定基準

③レッドリスト及び④レッドデータブック掲載種の区分

EX（絶滅）	既に絶滅したと考えられる種
CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）	絶滅の危機に瀕している種
CR（絶滅危惧ⅠA類）	ごく近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの
EN（絶滅危惧ⅠB類）	ⅠA類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの
VU（絶滅危惧Ⅱ類）	絶滅の危険が増大している種
NT（準絶滅危惧）	存在基盤が脆弱な種
DD（情報不足）	評価するだけの情報が不足している種
YO（要注目種）	現時点で普通にみられるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

※上記の記号、番号、区分の記載内容は、次表の鳥類から昆虫類についても同義である。

表 6.1.4-6(1) 注目すべき動物種 (鳥類)

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
カイツブリ	カイツブリ						○	○
	カンムリカイツブリ					○		
サギ	サンカノゴイ			EN	NT		○	○
	ヨシゴイ (*)			NT			○	○
	オオヨシゴイ			EN	CR+EN	○	○	○
	ミゾゴイ			EN	NT	○	○	○
	アマサギ						○	○
	チュウサギ			NT	NT	○	○	○
	コサギ (*)						○	○
カモ	コクガン	○		VU	VU	○	○	○
	マガン	○		NT	NT	○	○	○
	ヒシクイ	○		VU	NT	○	○	○
	コハクチョウ					○		
	オシドリ			DD		○	○	○
	トモエガモ			VU		○		
	シノリガモ			LP <sup>注1</sup>	LP <sup>注2</sup>	○		
タカ	ミサゴ			NT	NT	○	○	○
	オジロワシ	○	○	EN	VU	○	○	○
	オオワシ	○	○	VU	VU	○	○	○
	オオタカ (*)		○	NT	NT	○	○	○
	ツミ				DD		○	○
	ハイタカ			NT	NT	○	○	○
	ノスリ (*)							○
	サシバ			VU	VU	○	○	○
	チュウヒ			EN	NT	○	○	○
	ハヤブサ		○	VU	NT	○	○	○
	チゴハヤブサ				YO		○	○
	チョウゲンボウ (*)					○	○	
キジ	ウズラ			NT	CR+EN		○	○
クイナ	クイナ				YO		○	○
	ヒクイナ			VU			○	○
	バン						○	○
	オオバン				YO		○	○
タマシギ	タマシギ				YO	○		
チドリ	イカルチドリ						○	○
	シロチドリ						○	○
シギ	ヘラシギ			CR	NT		○	○
	シベリアオオハシシギ			DD	DD		○	
	アカアシシギ			VU	NT	○	○	○
	ホウロクシギ			VU	NT	○	○	○
	オオジシギ			NT	NT	○	○	○
セイタカシギ	セイタカシギ			VU		○		
ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU		○		
カモメ	ズグロカモメ			VU	YO		○	
	コアジサシ		○	VU	VU	○	○	○
ウミスズメ	マダラウミスズメ			DD			○	
	ウミスズメ			CR		○		
ハト	アオバト					○		
カッコウ	カッコウ					○	○	○
	ホトトギス						○	○
フクロウ	トラフズク				DD		○	○
	コシミズク (*)				YO		○	○
	コノハズク				DD	○	○	○
	オオコノハズク				DD		○	○
	アオバズク				NT		○	○
	フクロウ				YO	○	○	○
カワセミ	ヤマセミ					○	○	○
	カワセミ					○	○	○
キツツキ	アオゲラ						○	○
	アカゲラ						○	○
ヒバリ	ヒバリ					○	○	
ツバメ	ツバメ (*)						○	○

表 6.1.4-6(2) 注目すべき動物種（鳥類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
セキレイ	キセキレイ						○	○
サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU		○	○
モズ	チゴモズ			CR	CR+EN		○	○
	モズ						○	○
	アカモズ			EN	CR+EN		○	○
カワガラス	カワガラス				○	○	○	
ツグミ	コルリ						○	○
	ルリビタキ						○	○
	トラツグミ						○	○
	クロツグミ						○	○
	シロハラ						○	○
ウグイス	ウグイス						○	○
	オオセッカ		○	EN	CR+EN	○		
	コヨシキリ						○	○
	オオヨシキリ						○	○
	センダイムシクイ						○	○
	セッカ（*）					○	○	○
ヒタキ	キビタキ						○	○
	オオルリ					○		○
	コサメビタキ						○	○
カササギヒタキ	サンコウチョウ				○	○	○	
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ					○	○	
メジロ	メジロ					○		
ホオジロ	ホオジロ						○	○
	ホオアカ						○	○
	ノジコ			NT	YO		○	○
	アオジ（*）						○	○
33科	90種	6種	7種	38種	41種	39種	77種	76種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成22年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2010年)に準拠。

（\*）：仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（平成21年8月）における確認種。

注1：東北地方以北の繁殖個体群

注2：栗駒山一迫川水系繁殖個体群

表 6.1.4-7 注目すべき動物種（爬虫類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
イシガメ	ニホンイシガメ			DD	DD		○	○
	クサガメ				DD		○	○
トカゲ	ニホントカゲ						○	○
カナヘビ	ニホンカナヘビ（*）						○	○
ナミヘビ	タカチホヘビ				DD	○	○	○
	ジムグリ						○	○
	アオダイショウ						○	○
	シロマダラ				DD	○	○	○
	ヒバカリ					○	○	○
4科	9種	0種	0種	1種	4種	3種	9種	9種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成22年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2010年)に準拠。

（\*）：仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（平成21年8月）における確認種。

表 6.1.4-8 注目すべき動物種（両生類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
サンショウウオ	トウホクサンショウウオ			NT	NT	○	○	○
	クロサンショウウオ			NT	LP	○	○	○
イモリ	アカハライモリ			NT	LP		○	○
ヒキガエル	アズマヒキガエル						○	○
アカガエル	タゴガエル					○	○	○
	ニホンアカガエル（*）				NT		○	○
	トウキョウダルマガエル			NT	NT		○	○
	ツチガエル				NT		○	○
アオガエル	カジカガエル					○	○	○
5科	9種	0種	0種	4種	6種	4種	9種	9種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成22年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2010年)に準拠。

（\*）：仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（平成21年8月）における確認種。

表 6.1.4-9 注目すべき動物種（魚類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ヤツメウナギ	スナヤツメ			VU	NT		○	○
ウナギ	ウナギ（*）			DD			○	○
コイ	キンブナ（*）			NT				
	タナゴ			EN	VU	○	○	○
	アカヒレタビラ			EN	CR+EN	○	○	○
	ゼニタナゴ			CR	CR+EN	○	○	○
	ウグイ（*）						○	○
	シナイモツゴ			CR	CR+EN	○	○	○
ドジョウ	ホトケドジョウ			EN	NT		○	○
ギギ	ギバチ			VU	NT	○	○	○
アユ	アユ（*）						○	○
サケ	ニッコウイワナ			DD		○		○
	サクラマス			NT		○		○
メダカ	メダカ			VU	NT		○	○
トゲウオ	イトヨ日本海型			LP <sup>注1</sup>	VU	○	○	○
カジカ	カジカ			NT <sup>注2</sup>			○	○
ハゼ	ジュズカケハゼ						○	
ゴクラクギョ	チョウセンブナ				DD	○		
12科	18種	0種	0種	14種	10種	9種	14種	15種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成21年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2009年)に準拠。  
 (\*): 仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(平成21年8月)における確認種。  
 注1: 福島県以南の陸封のイトヨ太平洋型、本州のイトヨ日本海型  
 注2: カジカ大卵型

表 6.1.4-10(1) 注目すべき動物種（昆虫類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
アオイトトンボ	コハ <sup>°</sup> アオイトトンボ			CR+EN	CR+EN		○		
	オオアオイトトンボ						○		
イトトンボ	エリ <sup>°</sup> イトトンボ				NT	○	○		
	オセ <sup>°</sup> イトトンボ				VU	○	○		
	ヒヌマイイトトンボ			CR+EN	CR+EN		○	○	
	カラカネイトトンボ			NT	CR+EN		○		
	オオイトトンボ					○	○		
カワトンボ	アオハタ <sup>°</sup> トンボ				NT	○	○	○	
ヤンマ	オオルリボ <sup>°</sup> ヤンマ				NT		○		
	クロスジ <sup>°</sup> キンヤンマ						○		
	カトリヤンマ				NT		○	○	
	ヤブ <sup>°</sup> ヤンマ				VU		○	○	
サナエトンボ	アオサナエ				VU	○	○		
	コオニヤンマ						○		
	ウチウヤンマ				NT		○	○	
	ホジ <sup>°</sup> ロサナエ				NT	○	○		
	ナゴ <sup>°</sup> ヤサナエ			NT	DD	○	○	○	
オニヤンマ	オニヤンマ（*）						○	○	
エゾ <sup>°</sup> トンボ	トラアイトトンボ				VU	○	○		
トンボ	ヨツボ <sup>°</sup> シトンボ				VU	○	○		
	ハッチョウトンボ				VU	○	○	○	
	ゴシアキトンボ						○		
	チョウトンボ				VU		○		
	キトンボ				VU	○	○	○	
	ナツアカネ							○	
	マユタテアカネ							○	
	アキアカネ							○	
	ノシメトンボ							○	
	マイコアカネ							○	
	ミヤマアカネ							○	
	カマキリ	オオカマキリ（*）						○	○
	キリキ <sup>°</sup> リス	ハヤシノウマオイ						○	
マツムシ	スズ <sup>°</sup> ムシ				VU	○	○	○	
ヒバ <sup>°</sup> リモト <sup>°</sup> キ	ハマス <sup>°</sup>				CR+EN		○		
ハ <sup>°</sup> ツタ	ヤマトマダ <sup>°</sup> ラハ <sup>°</sup> ツタ				VU	○	○	○	
	カワラハ <sup>°</sup> ツタ						○	○	
	トノサハ <sup>°</sup> ツタ（*）						○	○	
カ <sup>°</sup> ロアムシ	カ <sup>°</sup> ロアムシ				DD	○	○	○	



表 6.1.4-10(2) 注目すべき動物種（昆虫類）

科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナナフシ	ナナフシ				DD	○	○	
	エダナナフシ					○	○	
セミ	チツセ						○	
	エゾセ						○	○
ナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ（*）				NT			
アメンボ	オオアメンボ						○	
コオイムシ	コオイムシ			NT	NT		○	○
	タカメ			VU	CR+EN	○	○	○
タイコウチ	タイコウチ						○	○
ウスハカゲロウ	オオウスハカゲロウ				CR+EN	○	○	○
セリチョウ	キハネセリ				VU		○	
	アオハセリ本土亜種				NT		○	
	ミヤマセリ						○	
	ホソハセリ				NT	○	○	
	ギンイチモンジセリ			NT	VU	○	○	
	チャハネセリ				YO	○	○	
	スジクワロチャハネセリ			NT	VU		○	
シジミチョウ	ミスイロオナガシジミ						○	
	ウラコマタラシジミ				VU		○	
	ウラクロシジミ				NT		○	
	ミドリシジミ						○	
タテハチョウ	ミスジチョウ				NT		○	
	オオムラサキ			NT	NT	○	○	○
アゲハチョウ	ヒメキアゲハ本州亜種			NT	VU	○	○	○
	カラスアゲハ本土亜種						○	
シロチョウ	ツマキチョウ				NT		○	
	ヒメシロチョウ			VU	CR+EN		○	○
シキリメチョウ	ツマシロウラシキリメ本州亜種				VU		○	○
	オオヒカゲ				NT		○	
スズメガ	ホソハスズメ				NT		○	
	コウチスズメ				NT	○	○	
	キロスズメ				NT		○	
トクカ	フタバシトクカ				NT	○	○	
オサムシ	オオホシホシゴミムシ（*）				DD			
	エゾカタヒロオサムシ				VU		○	
	オサムシモトキ				VU		○	
	コアオマイマイカブリ				NT		○	
	エゾハンミョウモトキ					○	○	
	ヤマトツクリゴミムシ（*）				DD			○
	キンナカゴミムシ（*）				NT			
	ヨツモンコミスズメキワゴミムシ（*）				DD			
ニッコウホソヒラタゴミムシ				VU	○	○		
ハンミョウ	カララハンミョウ			VU	CR+EN		○	○
	ハンミョウ						○	○
ケンゴロウ	クロケンゴロウ				VU		○	○
	ケンゴロウ			NT	NT		○	○
	マルコガタノケンゴロウ			CR+EN	CR+EN		○	
エンマムシ	ハマハエンマムシ				VU	○		
ハネカクシ	オオハネカクシ				NT	○		
クワガタムシ	ミヤマクワガタ					○	○	○
	ノコギリクワガタ					○	○	○
タマムシ	タマムシ				CR+EN	○	○	
ホタル	ケンシホタル				YO	○	○	
ツチハンミョウ	マメハンミョウ（*）				DD			
カミキリムシ	アオカミキリ					○	○	
	アオスシカミキリ				YO	○	○	○
40科	95種	2種	1種	15種	65種	34種	84種	41種

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成21年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2009年)に準拠。  
 (\*): 仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(平成21年8月)における確認種。

注目すべき動物種（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類）の合計

99科	231種	5種	6種	71種	126種	91種	203種	145種
-----	------	----	----	-----	------	-----	------	------

## ウ 注目すべき動物の生息地の状況等

概況調査地域には、仙台湾海浜県自然環境保全地域に指定される地域の一部が含まれており、動物の良好な生息環境として保全されていることから、ミサゴ、ハヤブサなどの猛禽類も生息していると考えられる。

また、井土浦や大沼は鳥類の渡来地となっており、シギ類、チドリ類、ガン・カモ類が生息しているものと考えられる。

概況調査地域における注目すべき動物の生息地は、表 6.1.4-11 及び図 6.1.4-6 に示すとおりである。

また、保全上重要な動物分布図は、図 6.1.4-7～12(p.6-94～99 参照) に示すとおりである。

表 6.1.4-11 注目すべき動物の生息地の状況

名称	対象動物	選定理由	環境特性
①井土浦	鳥類	シギ類の渡来地	広大なヨシ原と干潟が広がる。仙台湾海浜県自然環境保全地域内にあり、鳥獣保護区特別保護地区にも指定されている。
②荒井の大沼	鳥類	マガン渡来地	仙台平野の原風景をとどめる淡水沼。
③広瀬川 (中流～下流)	鳥類	中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ等の草地性の鳥類	中流部(生瀬橋付近～広瀬橋付近)は、青葉山河岸段丘の森林と崖があり、中洲も点在する、市街地を流れる清流広瀬川のシンボリックな部分である。下流部(広瀬橋より下流)は、川幅が広く、河川敷には農耕地が多い。
④名取川 (下流)	鳥類	河原のイカルチドリの生息・繁殖 オジロワシ等の猛禽類	河川敷は広く、石河原や、ヨシ群落、マコモ群落その他種々の河原の植物群落がみられる。
⑤仙台湾海浜	昆虫類	ヤマトバッタ等海浜性昆虫の生息(仙台湾海浜県自然環境保全地域)	砂浜と、内側にはクロマツ植林が続く。また、井土浦等の湿地や沼はトンボ類の重要な生息環境。

※上表の注目すべき動物の生息地は、③を除き東北地方太平洋沖地震による浸水の影響がみられる  
出典：平成6年度自然環境基礎調査報告書 平成7年3月 仙台市

## エ その他事業の立地上配慮を要する動物

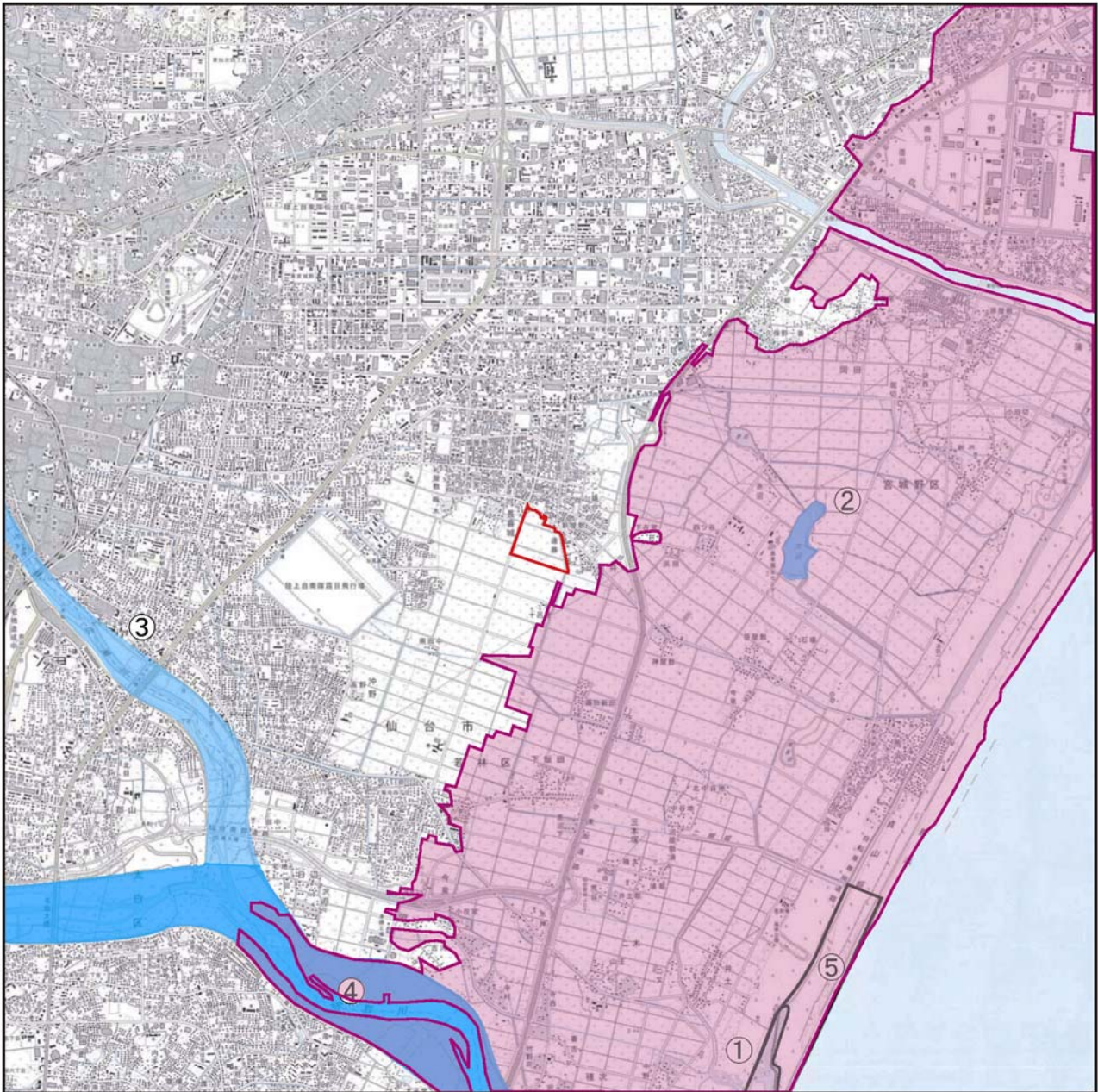
概況調査地域では、ミサゴ、ハヤブサの他、ハイタカ、オオタカ、チュウヒの注目すべき鳥類の飛翔が確認されている。これらの種の確認位置は、「宮城県の鳥類分布 2002、(財)日本野鳥の会宮城県支部」をもとに、図 6.1.4-13～17 (p.6-100～104 参照) に示すとおりである。

また、事業予定地及び周辺地域(図 6.1.4-5 の範囲の樹林・屋敷林 p.6-84 参照)において、現地踏査を行ったが、猛禽類のものと考えられる古巣は確認されなかった。

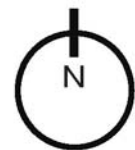
## オ 動物についての保全上の留意点

概況調査地域には、注目すべき動物が生息しているものと考えられる。

また、事業予定地は水田環境であり、水生昆虫などの注目すべき種が確認される可能性があるものと考えられ、現地調査において重要な種が確認された場合は、別途保全対策を検討するものとする。



出典：平成6年度 自然環境基礎調査報告書 平成7年3月 仙台市  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成  
 ※東北地方太平洋沖地震による浸水の影響があった注目すべき動物の生息地が見られる



縮尺 1/60,000

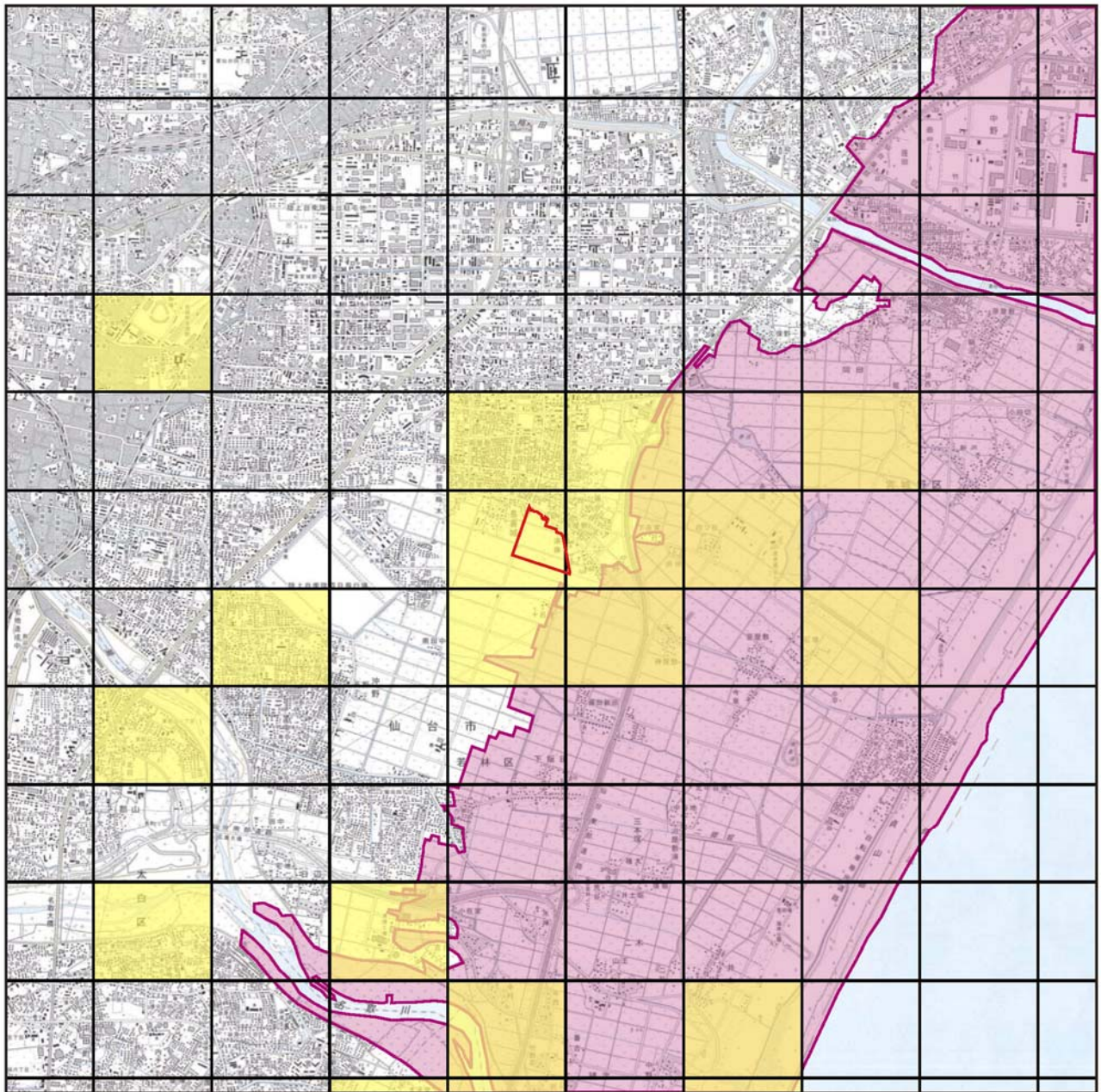


凡 例

- 事業予定地
- 仙台湾海浜県自然環境保全地域
- ① 井土浦 (鳥類)
- ② 荒井の大沼 (鳥類)
- ③ 広瀬川 (鳥類)
- ④ 名取川 (鳥類)
- ⑤ 仙台湾海浜 (昆虫)
- 浸水区域

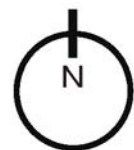
図 6.1.4-6 注目すべき動物の生息地確認位置図





出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011.4.9)」を基に作成



縮尺 1/60,000



凡 例




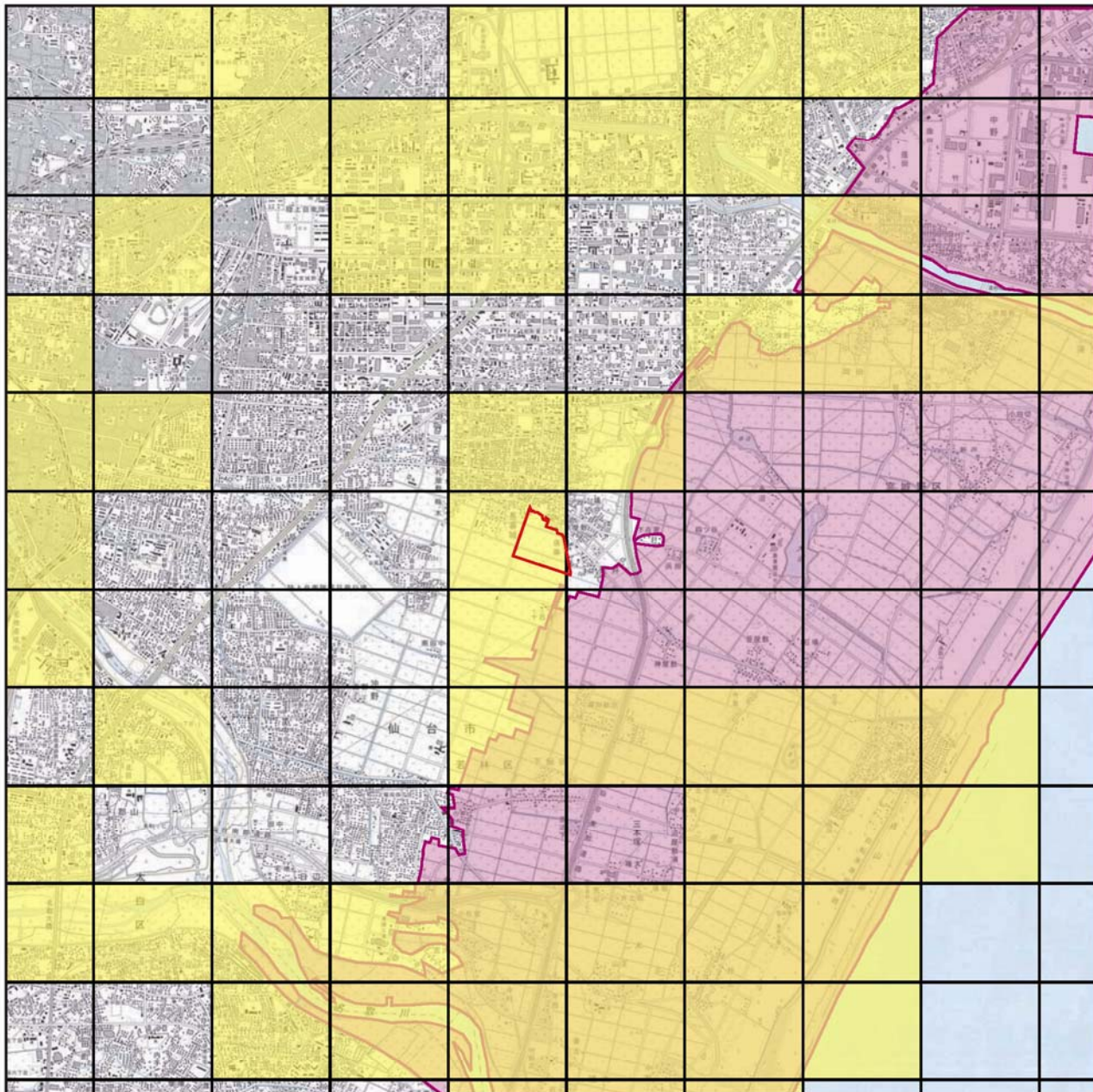
-  事業予定地
-  保全上重要な動物（哺乳類）分布区域
-  浸水区域

図 6.1.4-7 保全上重要な動物分布図（哺乳類）






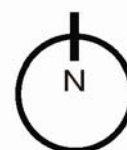


出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011. 4. 9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  保全上重要な動物（鳥類）分布区域
-  浸水区域

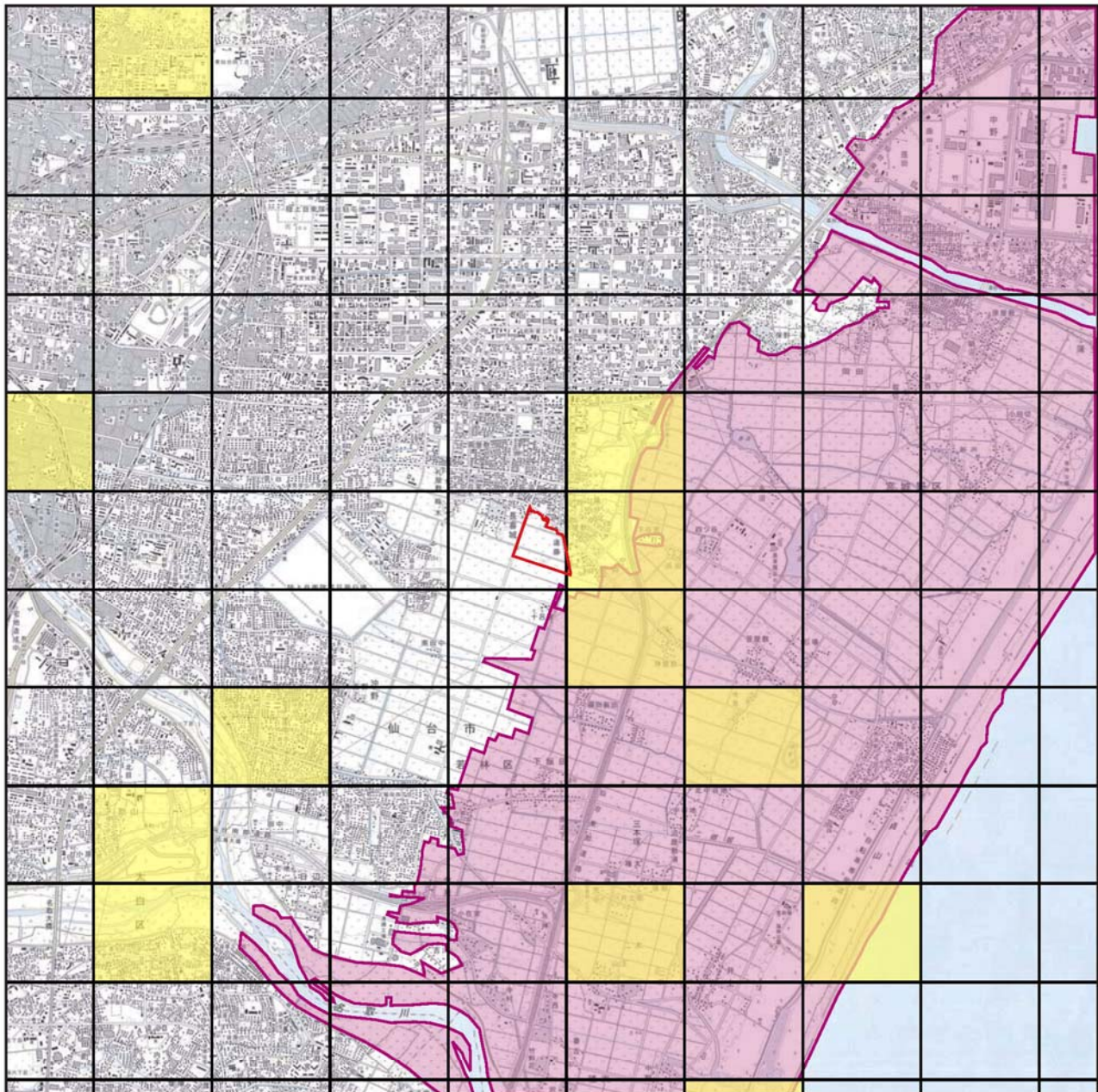


縮尺 1/60,000



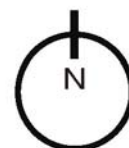
図 6.1.4-8 保全上重要な動物分布図（鳥類）





出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011.4.9)」を基に作成



縮尺 1/60,000



凡 例




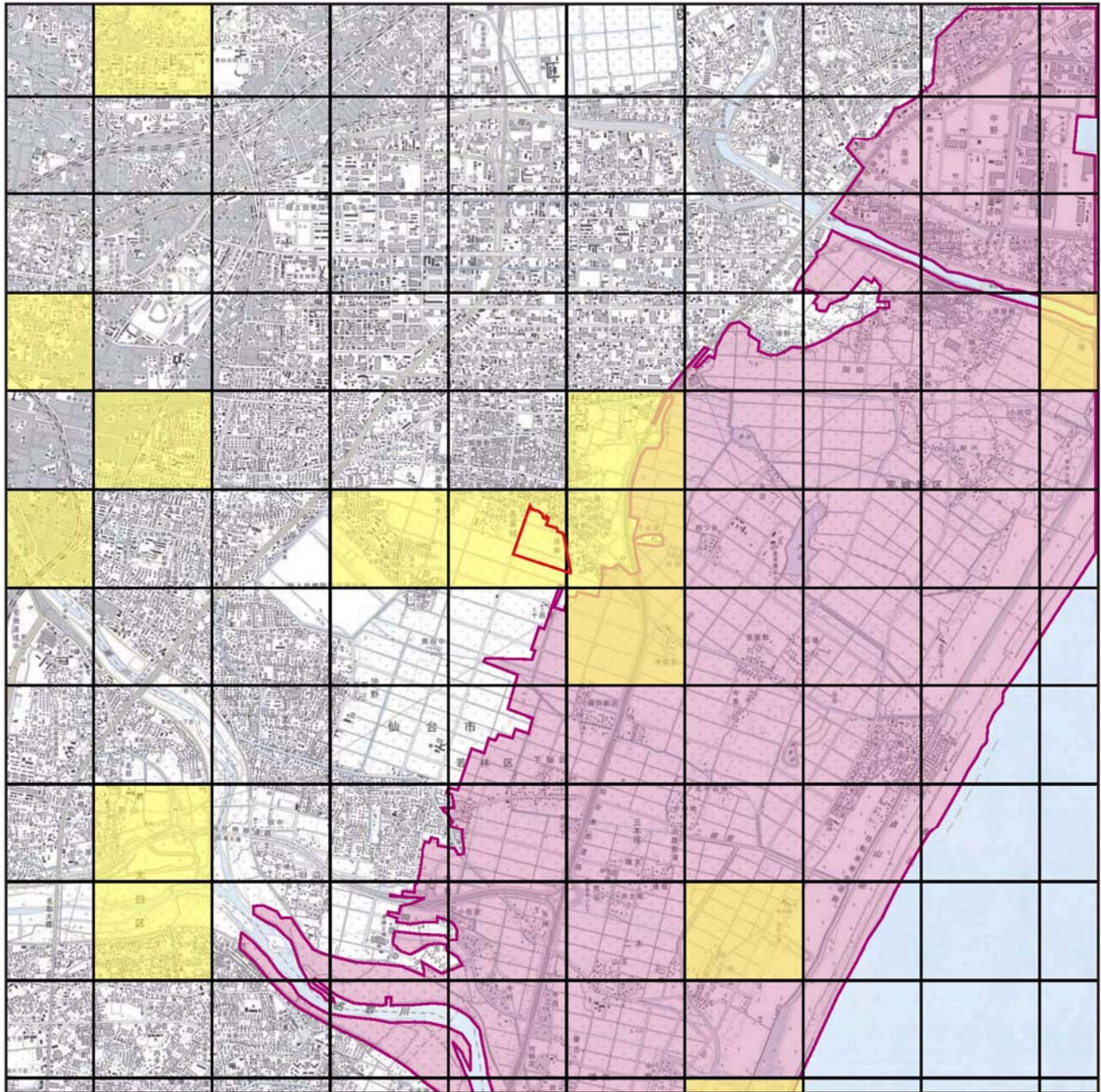
-  事業予定地
-  保全上重要な動物（爬虫類）分布区域
-  浸水区域

図 6.1.4-9 保全上重要な動物分布図（爬虫類）


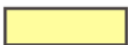



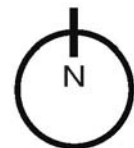


出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011. 4. 9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  保全上重要な動物（両生類）分布区域
-  浸水区域

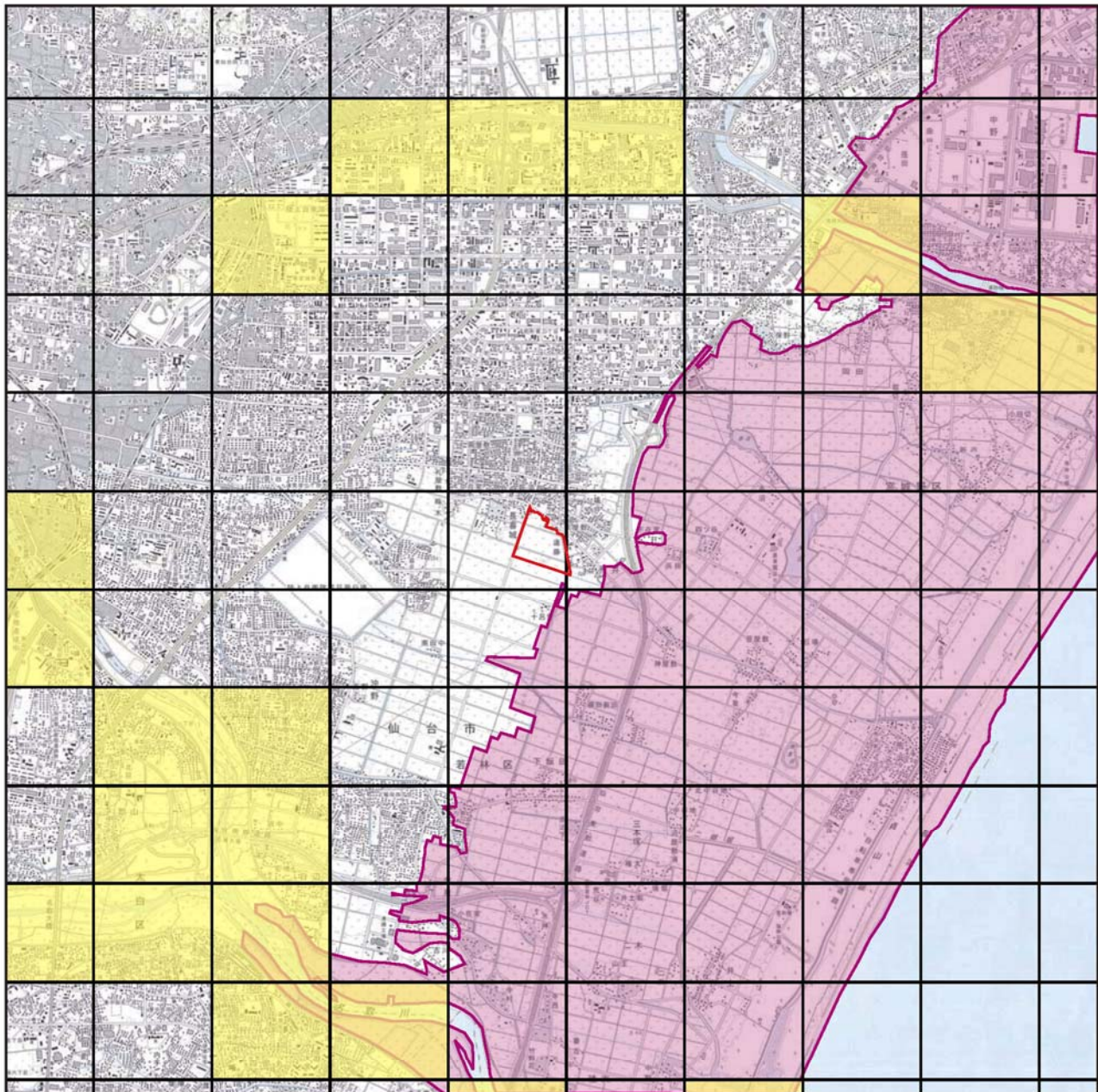


縮尺 1/60,000



図 6.1.4-10 保全上重要な動物分布図（両生類）






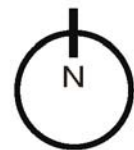


出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011. 4. 9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  保全上重要な動物（魚類）分布区域
-  浸水区域

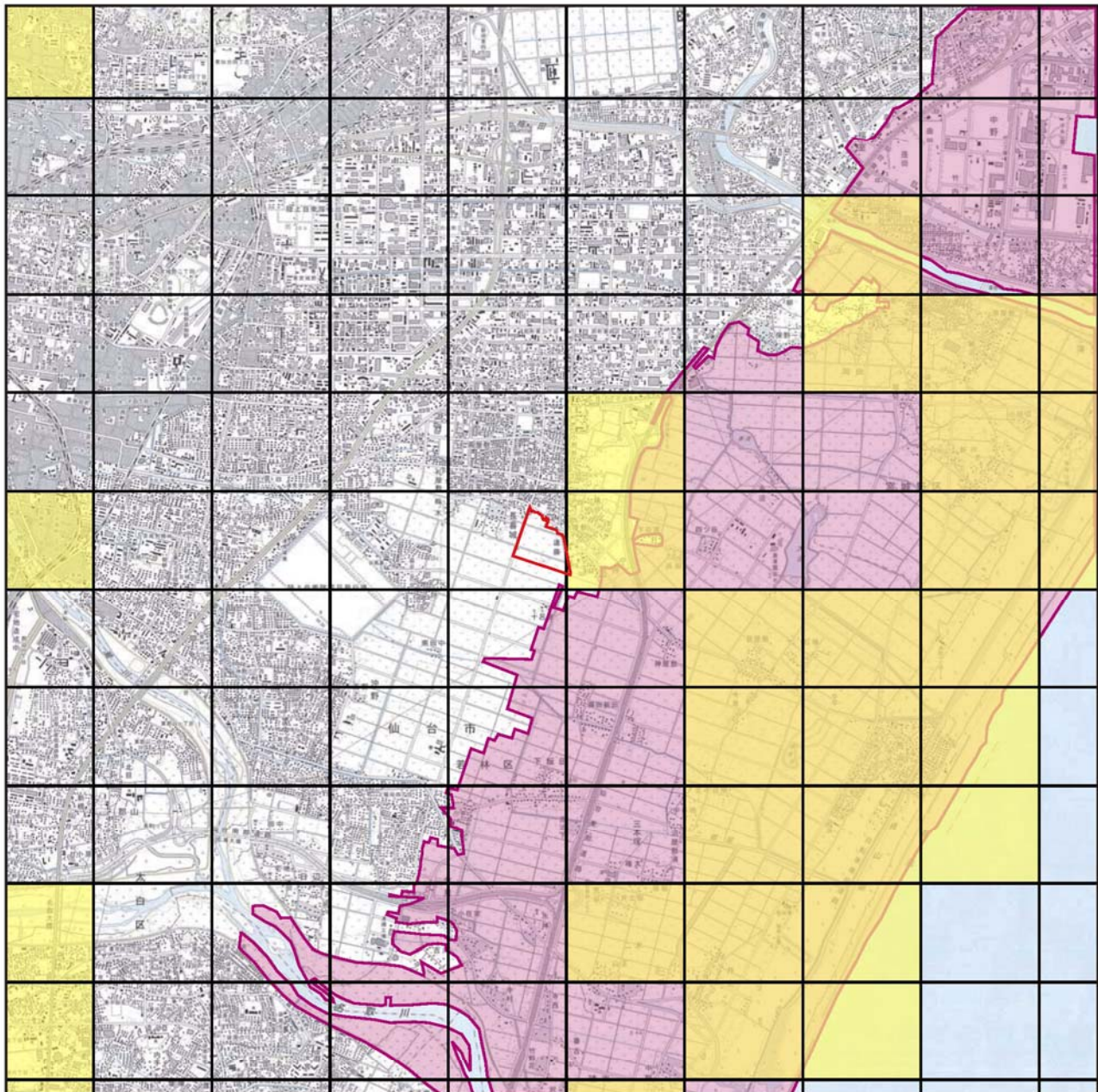


縮尺 1/60,000



図 6.1.4-11 保全上重要な動物分布図（魚類）






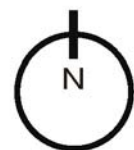


出典：平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書 平成 23 年 3 月 仙台市  
 保全上重要な動物分布図

※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  保全上重要な動物（昆虫類）分布区域
-  浸水区域

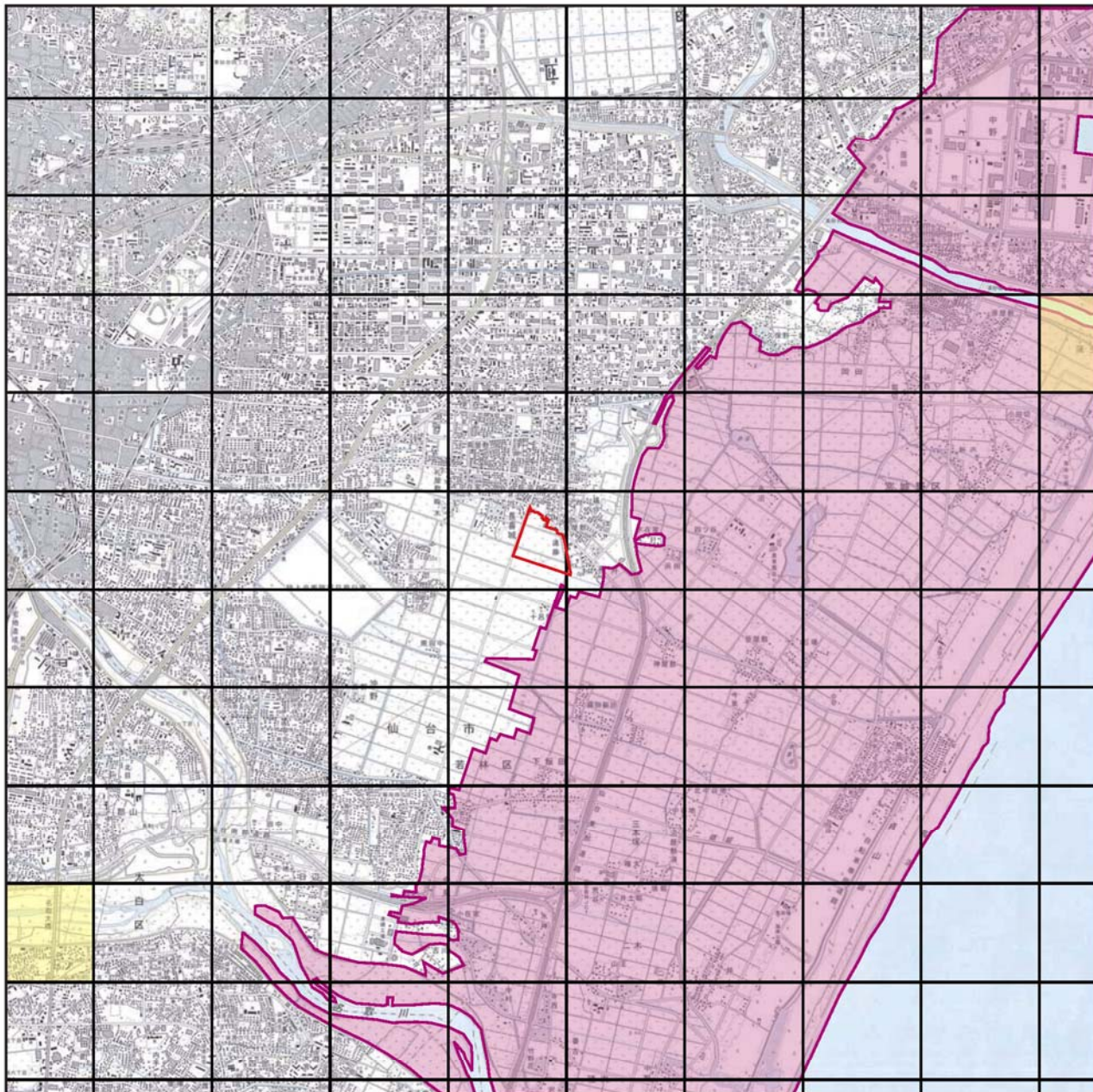


縮尺 1/60,000






図 6.1.4-12 保全上重要な動物分布図（昆虫類）





出典：宮城県の鳥類分布 2002年 (財)日本野鳥の会宮城県支部  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  オオタカ確認区域
-  浸水区域

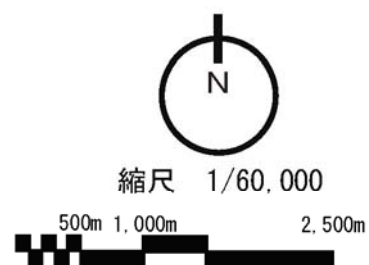
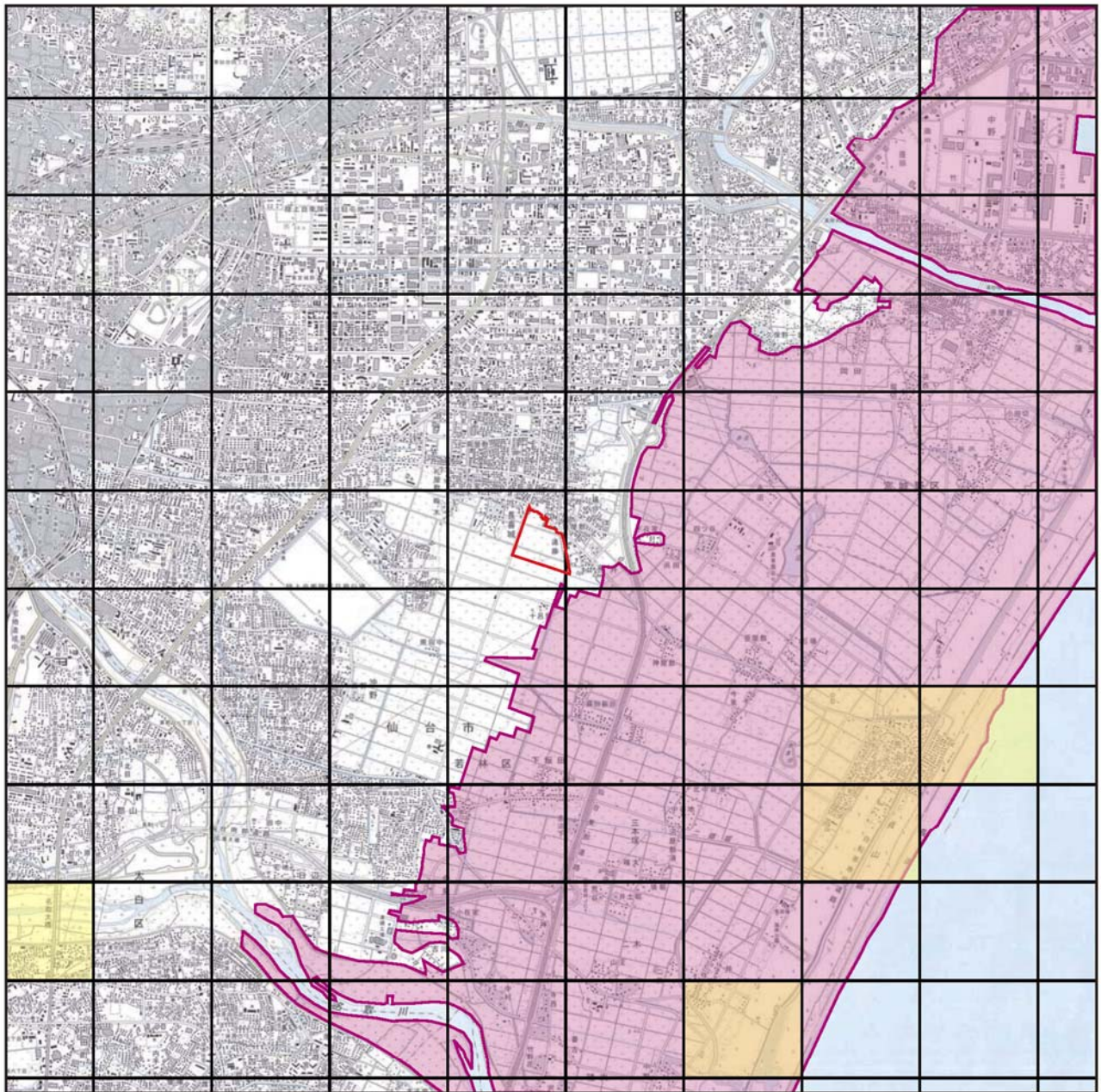



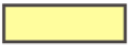

図 6.1.4-13 オオタカ確認位置図





出典：宮城県の鳥類分布 2002年 (財) 日本野鳥の会宮城県支部  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  ハイタカ確認区域
-  浸水区域

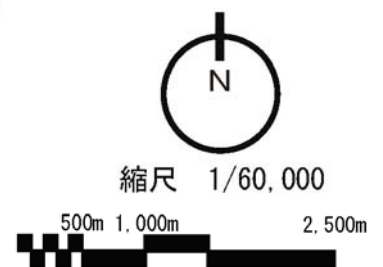
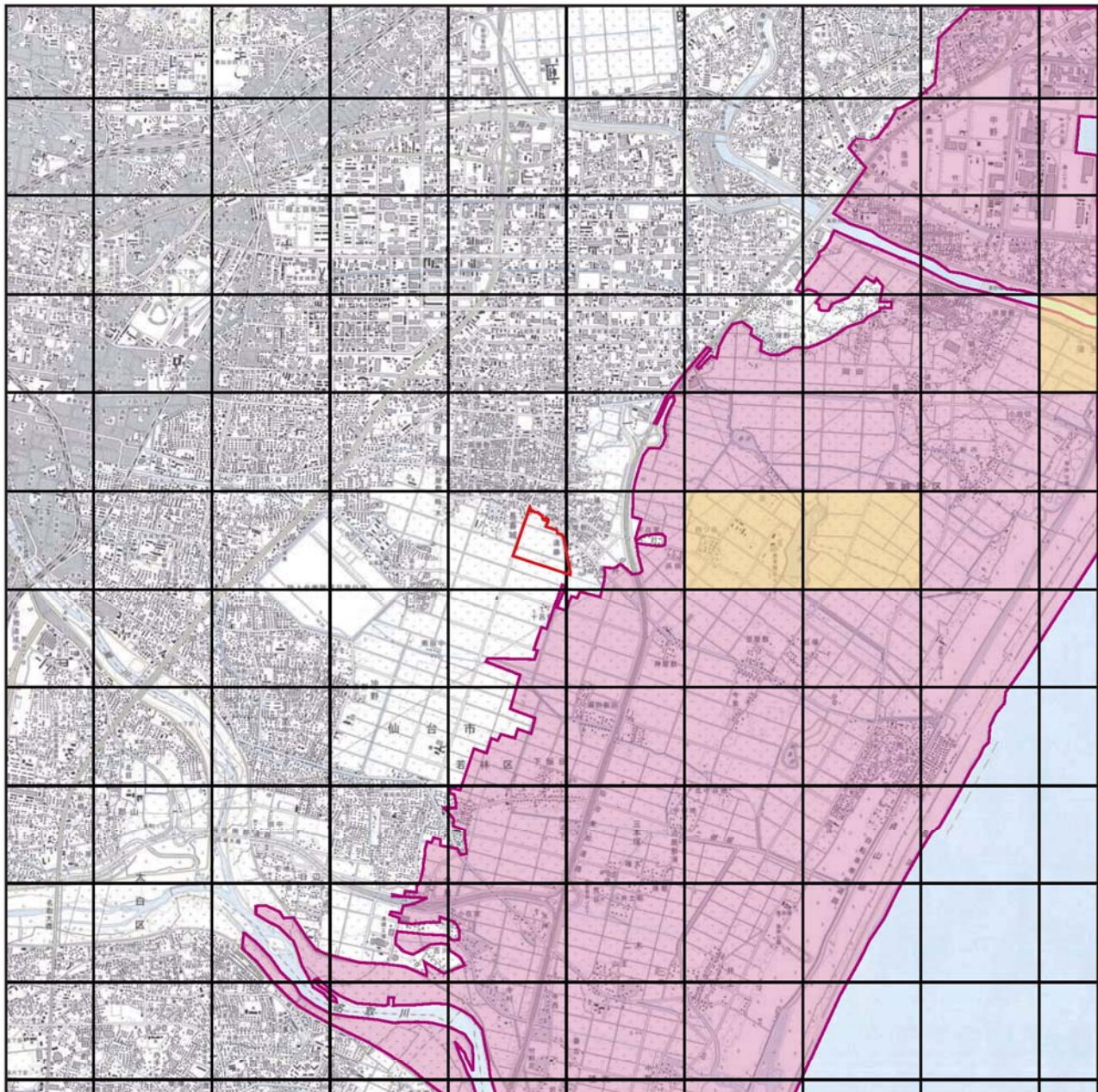





図 6.1.4-14 ハイタカ確認位置図





出典：宮城県の鳥類分布 2002年 (財)日本野鳥の会宮城県支部  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  ミサゴ確認区域
-  浸水区域

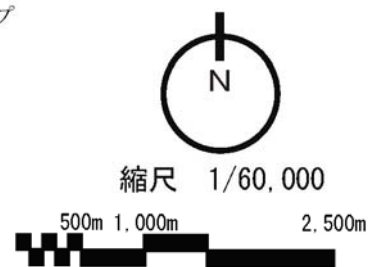
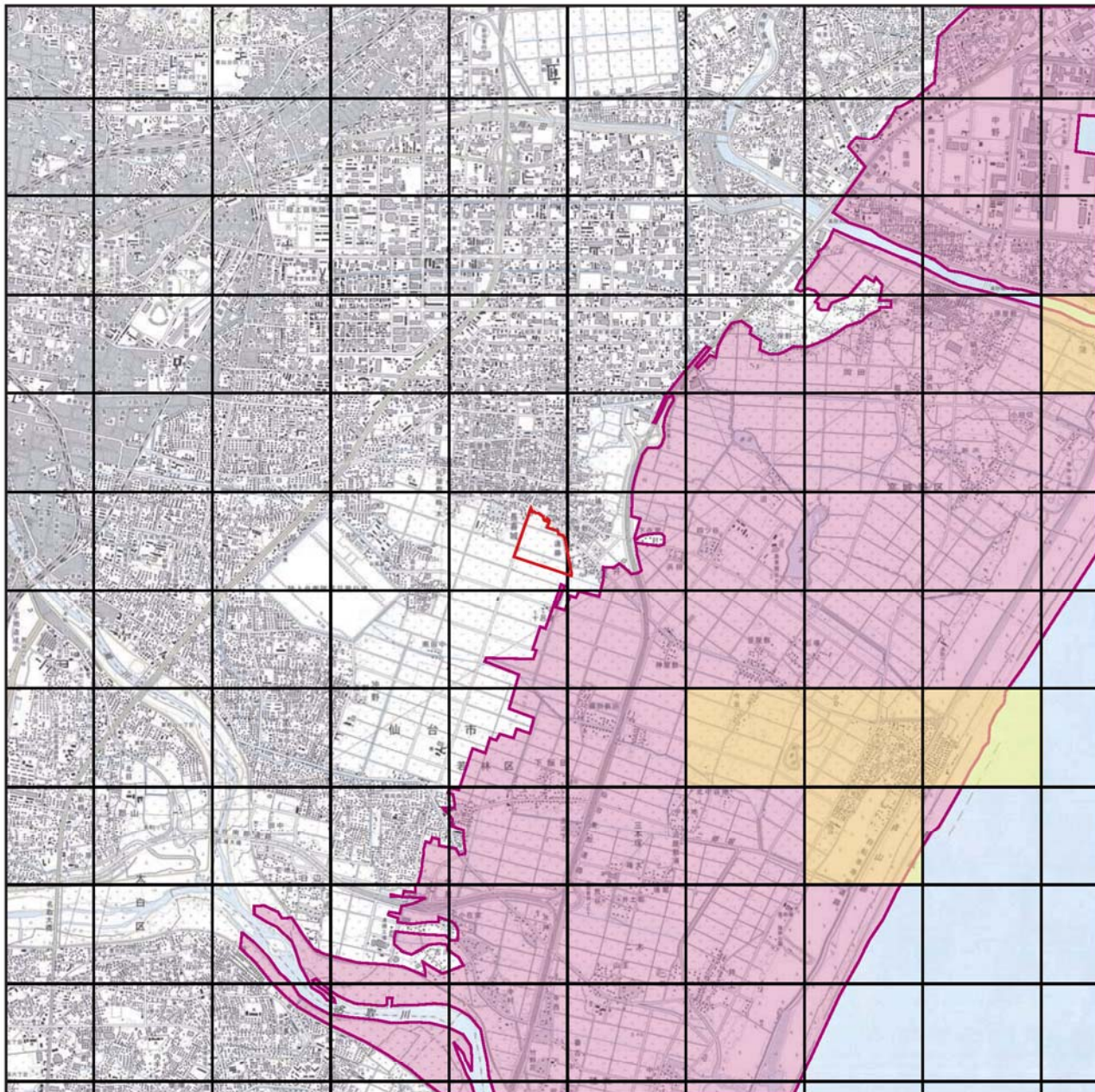



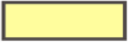

図 6.1.4-15 ミサゴ確認位置図





出典：宮城県の鳥類分布 2002年 (財)日本野鳥の会宮城県支部  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

-  事業予定地
-  チュウヒ確認区域
-  浸水区域

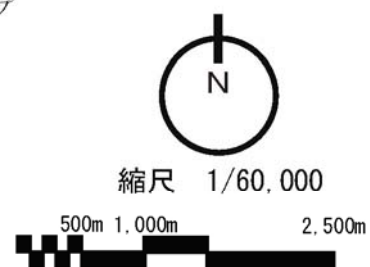
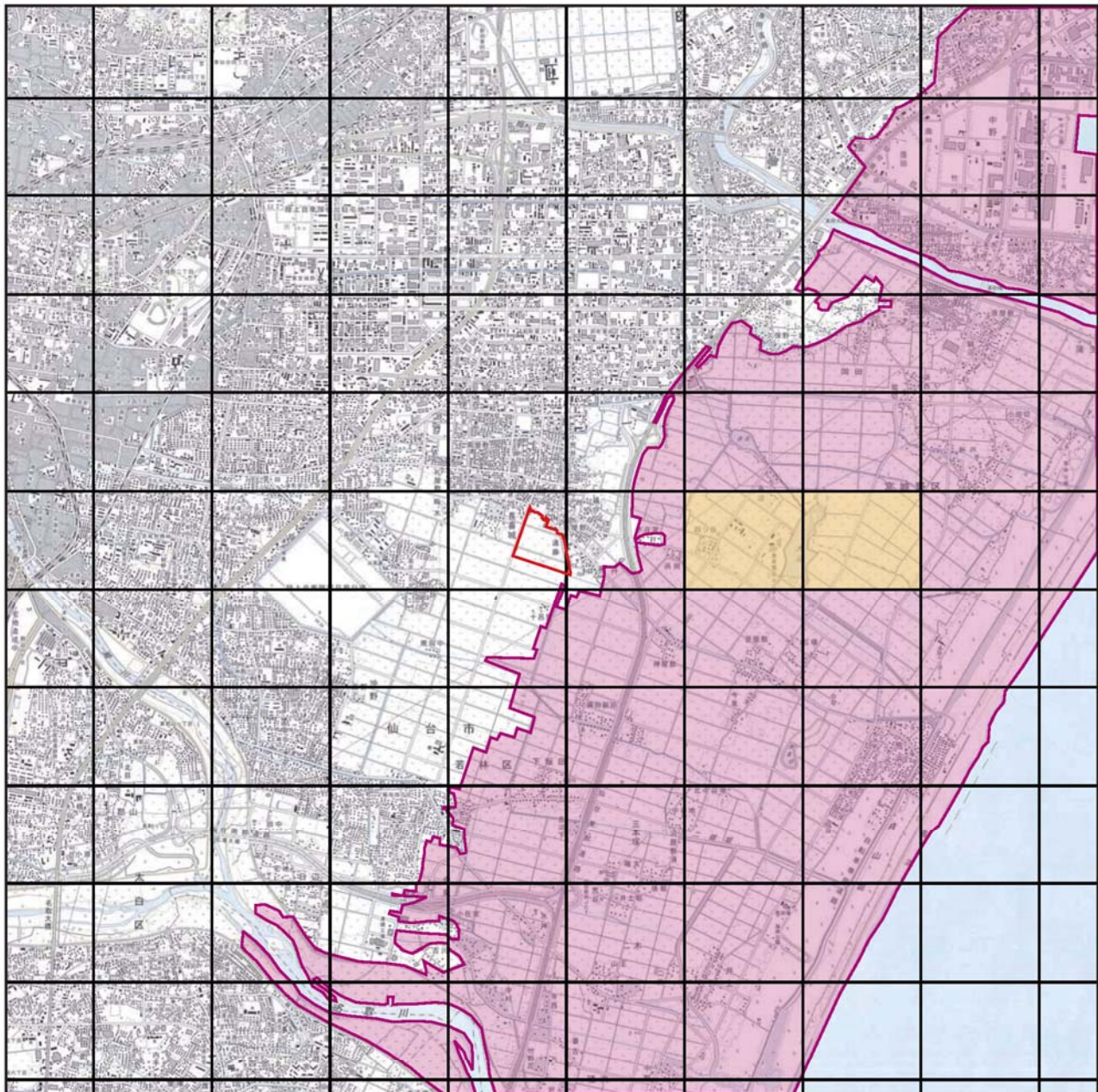
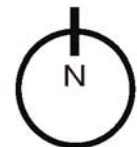


図 6.1.4-16 チュウヒ確認位置図





出典：宮城県の鳥類分布 2002年 (財)日本野鳥の会宮城県支部  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成



縮尺 1/60,000



凡 例


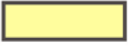

-  事業予定地
-  ハヤブサ確認区域
-  浸水区域

図 6.1.4-17 ハヤブサ確認位置図

### (3) 生態系

#### ア 地域の生態系の特性

概況調査地域の土地利用から、事業予定地の北西側は、一部の水田地帯と河川を除いて、市街地が広がっており、そのほか芝地、公園の緑地の他にまとまった植生はみられない。一方事業予定地の南東側には、水田地帯が広く分布している。

名取川や広瀬川の河川植生には、一部自然度の高いヤナギ高・低木林が確認され、中流・下流においては森林性から草地、水辺の鳥類の生息環境となっているものと考えられる。

事業予定地の南東側には、水田地帯が広く分布し、この低地水田地帯はセッカ、ホオアカの繁殖地となっているものと考えられる。

また、海岸部はクロマツ植林が確認され、防風及び飛散する海岸の砂を防ぐため、長期間にわたって形成された樹林帯である。植林ではあるが、長期間人の手が入っていない半自然林と考えられ、海岸植生を保全している。この海浜地帯は、仙台湾海浜県自然環境保全地域の一部に指定され、井土浦においてはシギ類の渡来地となっているほか、塩生植物群落が確認されている。

事業予定地は、大部分が水田の農用地で、水生昆虫類、両生類の生息環境と推測され、これを捕食するサギ類、シギ・チドリ類の採餌場となっていると考えられ、水田生態系（イネ科の植物－草食性昆虫類－両生類－鳥類）と推定される。

事業予定地を含む農地（水田）においてみられる動植物、また地域の生態系を特徴づける種（上位性、典型性、特殊性の種）として考えられる種の候補としては、概況調査の結果から、表 6.1.4-12 に示す種が想定される。水田にはトンボ類やバッタ類、水生昆虫類が生息し、これを捕食するセッカ、ホオジロなどの鳥類、両生類の小動物が生息するものと想定され、さらに高次消費者となるシマヘビ、ヤマカガシ、ダイサギ、ミサゴ等が生息するものと考えられる。

なお、地域の生態系を特徴づける種については現地調査の結果から選定するものとする。

表 6.1.4-12 農地（水田）の動植物種、地域の生態系を特徴づける種

植物種	動物種	地域の生態系を特徴づける種
ウキクサ、コナギ、イボクサ、イヌホタルイ、クサヨシ、セリ、イヌタデ、スカシタゴボウ、ヒメスイバ、イヌビエ	セッカ、コサギ、ダイサギ、ホオジロ、カルガモ、オオタカ、アズマモグラ、ニホンアカガエル、アマガエル、シマヘビ、ヤマカガシ、トンボ類、バッタ類、チョウ類	上位性：ダイサギ、シマヘビ ミサゴ 典型性：カエル類、水生昆虫類やバッタ類等の昆虫類 特殊性：---

- ・上位性：生態系の上位に位置する種。その種の存続を保障することが、おのずと多数の種の存続を確保することを意味するもの。
- ・典型性：当該地域の生態系の特徴をよく表す種、環境指標種（種群）、キーストーン種等。貴重種ではないありふれた種に特に着目する。
- ・特殊性：特異な立地環境を指標する種。生活の重要部分を他の生物に依存する種等。

参考：平成 6 年度自然環境基礎調査報告書 平成 7 年 3 月 仙台市  
仙台市環境影響評価技術指針マニュアル 平成 11 年 仙台市

## イ 生態系についての保全上の留意点

事業予定地は、大部分が水田によって占められており、南側に隣接する地区一帯も同様の環境であることから、このような水田の生態系保全の検討が必要である。

事業予定地の西側に位置する赤沼、大沼は、スジヌマハリイなどの注目すべき植物が生育する箇所であることや、水鳥類その他の動物の生息環境となっているものと考えられることから、工事中の影響がないよう充分注意することが必要である。